

令和 3 年 度

事業 報告 書

公益財団法人 東京動物園協会

目 次

第1 運 営 の 概 要

I. 運 営 概 要	1
------------	---

第2 公 益 目 的 事 業

I. 事 業 総 括	3
〔1〕管 理 施 設	3
〔2〕主 な 実 施 事 項	3
II. 事 業 実 績	20
〔1〕飼 育 ・ 展 示 事 業	20
〔2〕野 生 生 物 保 全 事 業	32
〔3〕教 育 普 及 事 業	34
〔4〕市 民 ・ 団 体 と の 協 働 事 業	58
〔5〕利 用 者 サ ー ビ ス	67
〔6〕安 全 ・ 安 心 の 確 保	75
〔7〕受 託 業 務	80

第3 収 益 事 業

I. 事 業 総 括	83
II. 事 業 実 績	84
〔1〕便 益 施 設 の 経 営	84
〔2〕そ の 他 の 事 業	87

第4 決 算 概 要

第5 事 務 報 告

I. 役 員 会 議 の 開 催	89
II. 監 査	90
III. 人 事 関 係	91
IV. 組 織 概 要	95

第1 運 営 の 概 要

I. 運 営 概 要

令和3年度における当協会を取り巻く環境は、令和2年度に引き続き厳しい状況であった。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、東京都において緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が断続的に発出され、これに伴い、都立動物園・水族園の臨時休園期間は1年のうち4か月以上もの長期に渡ることとなった。

この結果、当協会が運営する4園全体の入園者数については、約169万人に留まった。

また、園内売店や飲食店等の収益事業については、臨時休園で収入が大きく落ち込むなか、経費削減に努めながら通信販売の拡充及び園外販売の強化による収入確保に努めたものの、4園の収入は約11.1億円に留まり、令和2年度に引き続き厳しいものとなった。

このように困難な1年であったが、協会としての創立時からの使命である「動物園及び水族園事業の発展振興」、「人と動物の共存への貢献」のため、長年培ってきた技術・経験を土台とし、各園の個性を発揮して、我が国の動物園・水族館の先導役としての役割を果たすべく、以下の5つの取り組みを積極的に展開した。

1 野生生物本来の生態や魅力を引き出す「動物の飼育・展示」

4園が緊密に連携し展示動物の適正な飼育管理や魅力的な展示の充実を図った。また、4園で得られた野生生物に関する知見を国内外で積極的に発信するほか、大学や研究機関との共同研究を推進するなど、高度な飼育技術の継承・発展を図るとともに、動物福祉の向上の取り組みを行った。

【主な取り組み】

- ジャイアントパンダ双子の繁殖成功と新施設での公開、アジアゾウ新施設への個体移動と展示の開始、バショウカジキの採集と初展示、アムールヤマネコ雌雄の国外からの導入。
- 国際会議等へオンラインにより参加するなど、各方面の専門家との人的・技術交流による最新の知見や飼育技術の向上
- 環境エンリッチメントや給餌方法、トレーニングの工夫などを通じて動物福祉に配慮した飼育管理を行い、安全な健康管理や動物の自然な行動を引き出す取り組みを実施 など

2 「第2次ブーストック計画」の対象種など希少種を中心とした「野生生物の保全」

「野生生物保全センター」を中心に4園が役割分担し、計画的な野生生物の保全活動を展開した。また、「東京動物園協会野生生物保全基金」に新設した「保全パートナー部門」において、保全に取り組む研究者との連携を強化し、保全活動を開始した。

【主な取り組み】

- ジャイアントパンダ、コアラ、チーター、オウサマペンギン、ニホンライチョウ、オオアシトガリネズミなど希少動物の繁殖
- アカガシラカラスバトや陸産貝類など、4園で取り組む小笠原の希少生物の保全に関する普及啓発 など

3 多様なプログラムや情報発信による「教育普及」

4園ともに新型コロナウイルス感染症の影響でイベント等の対面での開催は休止又は中止となったが、教育普及センターのもと、各園が特色を活かしながら ICT を活用した教育プログラムを精力的に展開し、社会教育施設としての活動を推進するとともに、魅力を広く発信した。

【主な取り組み】

- 学校教育との連携を強化するために、教員対象セミナーをオンラインで開催するとともに、「中学生・高校生のための動物園・水族園活用ガイド」を都内の中学校と高校に配布
- ブースト種等を対象に飼育担当者等が生き物について解説する動画シリーズ「とっておきトーク」を東京 Zoovie Maps & Tours において公開 など

4 多様なニーズにきめ細かく対応する「利用者サービス」

入場券購入におけるキャッシュレス対応を引き続き推進するとともに、5G等の先端技術を活用したサービス等による利用者満足度の向上を図った。また、魅力的なオリジナル商品を企画・開発するとともに、通信販売の拡充及び園外販売の強化を行った。

【主な取り組み】

- 来園者の安全・快適な観覧のために、上野動物園において混雑状況をホームページ上で知らせる「上野動物園混雑マップ」を公開
- 多摩動物公園において、耐震化及びバリアフリー化のための建替え工事により、平成 28 年 4 月から休止していたライオンバスを再開
- 新たに Amazon でのシャンシャン関連商品の販売や百貨店通販サイトでの福袋販売などを実施 など

5 危機管理対策や万全な施設管理による「安全・安心の確保」

お客様に安心して来園していただけるよう、新型コロナウイルス感染防止対策の徹底に努めた。また、地震などの自然災害等を想定した訓練をオンライン会議システムを活用し実施するとともに、動物舎や樹木等の的確な管理に努め、お客様の安全・安心の確保を図った。

【主な取り組み】

- 事前予約制や滞留管理方式による入場制限を実施するとともに、入園前の検温、消毒の徹底、店舗での飛沫感染対策シート等の感染防止対策を実施
- 施設、設備や樹木等の定常的な維持管理に加え、ナラ枯れ処理やベンチ座板補修などの緊急的な維持管理を実施 など

第2 公益目的事業

都立動物園・水族園4園の指定管理者として管理運営を行うとともに、動物園事業の発展・振興を図り、動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献することを目的に、動物飼育及び展示業務、野生生物保全業務、教育普及業務、市民・団体との協働に関する業務、利用者サービスに関する業務、安全・安心の確保に関する業務、受託業務を実施した。

I. 事業総括

〔1〕管理施設

名 称	住 所	開園面積（㎡）	摘 要
恩賜上野動物園	台東区上野公園、池之端三丁目	144,048.73	
多摩動物公園	日野市程久保六丁目、七丁目、 南平八丁目	601,372.54	うち無料開園区域 77,508.22㎡
葛西臨海水族園	江戸川区臨海町六丁目	85,958.90	
井の頭自然文化園	武蔵野市御殿山一丁目、 三鷹市井の頭四丁目	115,500.00	

〔2〕主な実施事項

1. 4園共通

【新型コロナウイルス感染症対策】

新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、各園は令和2年12月26日から令和3年6月3日まで、および令和4年1月11日から3月21日まで（上野動物園は3月22日まで）の長期に渡る臨時休園を実施した。6月の再開園にあたっては、令和2年度に上野動物園と葛西臨海水族園で導入した事前予約整理券システムを多摩動物公園と井の頭自然文化園にも導入し、4園で入場制限を行うとともに、入園前の検温や手指消毒、店舗での飛沫感染対策シートやアクリル板の設置、座席の間引きなど、来園者に安心して動物園・水族園を楽しんでいただくための感染防止対策を実施した。

日々の業務を継続するために、職員の感染防止にも細心の注意を払い、手洗い、手指消毒、マスク着用、黙食など基本的な感染防止対策を徹底するとともに、会議のオンライン化やテレワークの実施等を積極的に進めた。また、飼育管理体制を維持するために、飼育班における交替制勤務や執務室の分散を実施した。これらの対応の結果、同じ部署での感染拡大は発生せず、業務継続が困難になるような事態の発生を防ぐことができた。

【動物の飼育・展示】

展示動物の適正な飼育管理と魅力的な展示の充実に向け、4園間の密接な連携のもと、飼育展示業務を着実に実施した。また、飼育下でのトレーニングや各種エンリッチメントの実施、飼育環境整備など、動物福祉の向上に向けた取り組みを行った。

高度な飼育繁殖技術の継承・発展を目指し、各園で教育普及・飼育展示研究会等を定期的に開催した。国内外の会議・学会・研究会等はそのほとんどがオンライン開催となったが、積極的な参加を通じて各方面の専門家との人的・技術交流や最新の知識や技術の向上に努めた。

第2次都立動物園マスタープランを踏まえ、長期的な視点に基づく飼育展示種の将来的な基本方針と飼育展示計画の作成を進めた。また、世界動物園水族館協会(WAZA)や日本動物園水族館協会(JAZA)での動物福祉に関する動向を踏まえ、令和2年度に策定した「動物飼育展示に関する倫理・福祉ポリシー」に基づき、知識習得のための自己学習を実施した。

【野生生物の保全】

野生生物保全センターを中心に、内外の諸機関とも連携し、各園で希少種等の保全活動を推進した。上野動物園での人工授精によるニホンライチョウの孵化や多摩動物公園におけるオオアシトガリネズミの繁殖に国内で初めて成功するとともに、ジャイアントパンダやコアラ、チーター、オウサマペンギンなど、ブーストック種及び保全対象種のうち43種が4園で繁殖した。

「第二次ブーストック計画」の対象種124種については、飼育繁殖や保全、教育普及等の取り組みを一層推進し、その進捗状況に関しての評価検証を行った。その結果、令和3年は対象種のうち75.4%について飼育繁殖の計画に沿って取り組みを進めるなど、着実に計画を推進した。また、ブーストック計画推進ハンドブックについては32種を作成した。

各園でトキやアカガシラカラスバトなどの繁殖に成功するとともに、生息域内で保護されたアカガシラカラスバトやコウノトリ、オガサワラオオコウモリなどの個体を受け入れ、環境省の保護増殖事業に貢献した。

「東京動物園協会野生生物保全基金」に新設した「保全パートナー部門」において、保全に取り組む研究者との連携を強化し、固有事業としての新たな保全活動を開始した。

【教育普及】

教育普及センターを中心として4園が連携しながら、動物の行動や形態、野生生物の保全活動、観察の方法など、多様なテーマにもとづく教育普及活動を実施した。感染拡大のため対面イベントは休止や中止を余儀なくされたが、TwitterやYouTube、Instagramなど、ソーシャルメディアサービスごとの特性に合わせた情報発信を行うとともに、ウェブ会議サービスを活用した講演会やワークショップなどを実施し、臨時休園期間も含め、積極的な教育普及プログラムを展開した。

学校教育との連携を強化するために、教員対象セミナーを新たな試みとしてオンラインで開催するとともに、中高生向けの冊子「中学生・高校生のための動物園・水族園活用ガイド」を都内中学校と高校に配布した。また、中高生を対象に動物園・水族園での観察レポートを募集する「動物園・水族園レポートチャレンジ」を実施した。

生き物について楽しみながら学ぶことができるコンテンツ「東京 Zoovie Maps & Tours」においては、ブーストック種等を対象に飼育担当者等が生き物について解説する動画シリーズ「とっておきトーク」を37編公開し、内容の充実を図った。

【利用者サービス】

利用者の多様なニーズにきめ細かく対応するため、入場券購入におけるキャッシュレス対応を引き続き推進した。多摩動物公園と葛西臨海水族園の手売窓口におけるQRコード決済は令和2年度に導入準備を完了し、再開園した6月から運用を開始した。7月にはクレジットカードによる事前決済オンラインチケットを4園に導入するとともに、井の頭自然文化園の手売窓口でQRコード決済を稼働させた。さらに上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園における自動券売機への電子マネー（交通系ICカード）決済は、3月の再開園時から運用を開始した。これにより4園すべての手売窓口においてクレジットカード決済、電子マネー決済、QRコード決済が利用可能となった。また、上野・多摩・葛西の自動券売機（井の頭は自動券売機なし）において、クレジットカード決済と電子マネー決済の利用が可能となった。

東京都からの受託により、上野動物園において5G等の先端技術を活用した情報発信事業の実証実験を行い、実験結果の評価検証に基づき、令和4年度以降、都立動物園において本格的に先端技術を活用した情報発信を推進していくための計画案を作成した。またこれとは別にKDDI株式会社との5G等を活用した事業の実施に関する基本協定に基づき、上野動物園内の混雑状況をホームページ上で知らせる「上野動物園混雑マップ」のサービスを6月4日から開始した。

若手職員を中心に参加するサービス向上委員会では引き続き外部有識者の意見を取り入れながらサービス向上策の検討を進め、4園の見所を伝えるデジタルマップの公開、Instagram公式アカウントにおける4園投稿の統一感を図る計画的な運用体制の構築、多摩動物公園正門における動物あしあとデザインの靴底消毒マット設置、協会職員向け接遇ガイドの作成など、新たな施策を実施した。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

感染拡大下におけるリスク管理として、日常的な感染防止対策を徹底するとともに、会議のオンライン化やテレワーク、交替制勤務等を実施し、安定した事業継続のための危機管理に努めた。

震災・テロ対策に関する職員の防災意識と知識向上のため、新規作成した防災マニュアル「TokyoZoo 防災」を職員に配布し、マニュアルの内容に基づいたeラーニングを実施した。また、4園においてコロナ禍における震災対策机上訓練を行ったほか、4園で実地での震災対策訓練を、葛西ではテロ対策訓練を実施した。

施設管理については、日常の巡回点検や定期的な樹木点検等により、不具合を早期に発見し、迅速に対応することで園内の安全で快適な環境を確保した。台風、集中豪雨、大雪等の自然災害に対しては、気象災害対策計画や雪害対策計画に基づき、迅速に緊急点検を実施し、不具合箇所や落枝等の早期発見・対応により、入園者への影響を未然に防いだ。また、施設係と飼育展示係の協力体制に基づく情報共有を通じて、脱出事故を未然に防ぐための施設補修等を適切に実施した。

令和元年8月に多摩動物公園インドサイ舎で発生した職員死亡事故を受け、令和2年度に策定した動物事故再発防止対策に基づき、特定動物等の管理に係るリスクアセスメントや安全作業マニュアルの作成、動物舎へのモニターカメラや転倒時通報機能を有したスマートウォッチの導入、職員同士が情報共有を図るためのミーティングの実施、ヒューマンエラーに関する研修等、令和2年度に引き続き人的側面や物理的側面から事故防止の徹底を図った。

情報セキュリティ対策については、職員対象のeラーニングを実施するとともにセキュリティワイヤー等の点検を実施し、ソフトとハードの両面からの強化を図った。また、協会の利用するネットワークをより強固な構成へ変更し、外部からの侵入等に対してより安全な環境を整備した。「情報セキュリティ外部監査」を実施し、緊急連絡体制等の再認識等、職員のセキュリティ意識を向上させた。

2. 恩賜上野動物園

【動物の飼育・展示】

令和3年6月23日に、ジャイアントパンダの新飼育施設「パンダのもり」において、「リーリー（オス）」と「シンシン（メス）」の間に双子のジャイアントパンダ「シャオシャオ（オス）」と「レイレイ（メス）」が誕生。1月12日～1月14日の3日間及び3月25日より、双子パンダの公開を実施している。東園パンダ舎で飼育展示されている「シャンシャン（メス）」は順調に成長し、6月12日に4歳の誕生日を迎えた。

アジアゾウ「ウタイ（メス）」が令和2年10月31日に出産した子ゾウ「アルン（オス）」は、順調に成育しており、令和3年度には準間接飼育の移行に向けたアジアゾウ舎の施設改修を実施した。

令和3年3月28日に繁殖が確認されたマヌルネコは、5月に雄雌の2頭であることが判明し、その後も順調に成育した。

アメリカバイソンの「ヒート（メス）」が11月16日に20歳で死亡した。またバイソン舎の施設改修工事のため、1月11日に「ラテ（メス）」が短期動物預託で静岡県日本平動物園へ移動した。

3月23日にクロキツネザルの「mam（メス）」が1頭の子（メス）を出産した。

「子ども動物園すてっぷ」で飼育していた沖縄在来豚「アグー」の「チルー（メス）」は、全身にがんが広がっており、治療及び苦痛の低減をはかり生活の質（QOL）を維持することに努めてきたが、回復が見込めず、苦痛が増大していく状況と判断し、動物福祉上の観点から9月6日に安楽死処理を行った。また、新規展示種としてウシ（ホルスタイン）やミゾゴイ、シマスカンクを新たに導入した。

両生爬虫類館では、日本の両生類・爬虫類を文化的側面から紹介する特設展示「民俗学からみる くらしの中の両生類・爬虫類——Folklore × Herpetology」を開催。天然記念物である岩国のシロヘビなどの展示を行った。

【野生生物の保全】

ライチョウでは、7月17日に人工授精によるライチョウの孵化に日本で初めて成功した。また3月には、今後のライチョウの保全活動を推進していくため、いしかわ動物園と富山市ファミリーパークからオス計2羽を搬入し、いしかわ動物園へメス1羽、富山市ファミリーパークへオス1羽、横浜市繁殖センターへメス1羽をそれぞれ搬出した。ライチョウに関する共同研究は、日本獣医生命科学大学、中部大学、岐阜大学とそれぞれ継続して実施した。

ルリカケスは、12月17日に1ペアを平川動物公園へ移動した。3月11日には、採集により奄美大島から新たな繁殖用個体として計2羽の雛を受け入れた。

オガサワラカワラヒワは、国と都の保護増殖事業種に選定され、9月には父島にて域外保全活動が開始された。当協会としては、現地における域外保全活動のサポートのほか、カワラヒワを横浜市より導入し、亜種による飼育技術確立に努めていくこととなった。オガサワラカワラヒワに関する共同研究では、明治大とジオロケータ装着に関する試験を実施した。

アカガシラカラスバトは、3月末日現在、27羽（オス10メス17）を飼育している。5月には多摩動物公園からメス2羽を移動し、5ペアで繁殖に取り組んでいる。飼料に関する共同研究を日本獣医生命科学大学と継続して実施した。

イボイモリは、順調な繁殖を継続しており、令和3年3月と5月に産卵が確認され、3月末日現在、徳之島由来の創始個体6頭、上野繁殖個体51頭及び令和3年繁殖個体27頭の計84頭を飼育している。

ミヤコカナヘビは、平成29年10月に日本動物園水族館協会を通じて繁殖用個体14頭を導入した。平

成30年6月に孵化を確認してから順調に繁殖を継続しており、3月末現在で117頭を飼育している。

小笠原産陸産貝類であるアナカタマイマイの生息域外保全の取り組みは順調で、令和2年度は繁殖を制限していたが、令和3年度は繁殖を再開し、3月末時点での飼育数は127個体となっている。また、令和3年度には小笠原産陸生貝類やミヤコカナヘビなどの飼育展示を通じた普及啓発を始めるための新展示施設の整備を進めた。

【教育普及】

感染拡大防止のため、人を集める形での教育普及活動の一部（子ども動物園すてっぷ及び動物解説員による学習プログラムや団体向けの教材の貸し出し等）は、感染が落ち着いた秋以降、安全対策をとりながら徐々に再開した。子ども動物園すてっぷでは、人数を制限し、万全の感染防止対策を講じた上で、令和3年11月4日に小学校1団体（荒川区立第六日暮里小、引率教員＋1年生児童28名）の団体指導プログラム、12月5日に東京都弱視教育研究会のグループ（児童26名、引率教師11名）のZOOスクール弱視クラスを実施したところ、コロナ禍でも貴重な体験できたと好評だった。しかし、冬に再び臨時休園となったため、年間の実施件数は少なかった。コロナ禍でも安全に実施できる教育普及活動として、オンライン授業やオンライン観察会の開催に力を入れ、「うへのZOOスクール」は内容をブラッシュアップし、募集人数を令和2年度より増やしてオンラインにて開催したところ、全国からたくさんの子供たちの応募があった。

東園の「Tokyo Zoo Welcome Center」は、令和3年9月末に運用を終えたが、その建屋をオンラインイベントの発信拠点「UENO ZOO STUDIO」として有効活用することとし、動物解説員のオンライン授業のほか、令和4年3月20日の開園記念日に「開園140周年記念講演会」をYouTube Liveにより配信するなどの取り組みを行った。

ジャイアントパンダ「シャンシャン」の4歳の誕生日はオンラインイベントとして開催し、当園ウェブサイトを特別仕様にしたほか、シャンシャンと同年代のニシゴリラ「リキ（オス）」との成長を比べる動画の掲載と壁紙のプレゼントを実施した。また、公式Twitterにて、gif動画による「パンダアクション」を開催したところ、多くの方が参加し、3,000件以上の「いいね」がついた。

令和3年6月22日からは東園さるやまキッチン付近でリーリーとシンシン来園10周年を記念した企画展を開催した。また、QRコードを活用したセルフ版のクイズラリー「クイズで発見！園内セルフ観察版」や、寅年にちなんだミニ干支展、スマートフォンを利用した非接触のデジタルラリー「都立動物園・水族園 冬の見どころデジタルラリー」など、来園者が安全に楽しめる方法でイベントを開催した。

令和3年7月6日から両生爬虫類館で特設展示「民俗学からみる くらしの中の両生類・爬虫類——Folklore × Herpetology」を開催した。冬季はコロナ対策の換気による館内温度の低下のため展示を休止したが、東京Zoovie Map&Toursで特設展の様子をオンラインにて公開し、展示休止中も楽しめるようにした。

令和3年6月23日に当園では初となるジャイアントパンダの双子が誕生したことに伴い、情報発信に積極的に取り組み、プレス発表や園内での記者会見に加え、生後一か月間は週に二回、それ以降は毎週、双子の成長の情報提供を行った。双子のジャイアントパンダの名前については、8月7日から8月20日までの14日間で一般から名前を募集した。応募総数は192,712件あり、応募の多かった名前上位150点を対象に、国内外のパンダと同じ名前や既存キャラクター名などを除き、オス5点・メス6点を名前候補選考委員会で審議した。その中からもっとも高い評価を得た「シャオシャオ」「レイレイ」を、中国側の確認などを経て最終的に双子の名前に決定し、10月8日に公表した。令和4年1月12日

に実施した双子の初公開時の取材対応には、海外系メディアを含む多くのマスコミが来園し、様々な媒体で紹介された。

令和3年11月からは東京ズーネットYouTubeチャンネルを活用した、ガイドツアーに変わる動物解説動画「くらべて、ためして、おっかけて～動物解説員の視点～」の配信を開始し、7本の動画を掲載した。臨時休園中はTwitterとウェブサイトにおける情報発信と併せて、YouTubeチャンネルによる新コンテンツ「今日の上野動物園さんぽ」を配信し、好評を得た。

アウトリーチ活動では、令和3年11月までに2件、講師を派遣して実施したが、感染状況が悪化した1月以降はオンラインによる対応を2件行った。

【利用者サービス】

6月4日の再開園にあたり、感染拡大防止、並びに飼育動物の安全確保のため、令和2年度に引き続き整理券予約システムを導入して1日の来園者数を制限することにより、来園者と動物園にとって安心・安全な環境を整えた。手指消毒液やジャイアントパンダの足跡をあしらったソーシャルディスタンス用マットの設置など、令和2年度に実施した対策に加え、新たに来園時の検温システムを導入し、感染防止対策に万全を期した。

1月11日から第6波の影響により再び臨時休園となったが、3月23日に、それまで使用していた仮設表門から新たに正門へ移転しての再開園を迎えることができた。再開園にあたっては、仮設表門での整理券制を継承しての運用となった。正門の建物はJR上野駅公園口改札から真正面に位置しているため、視認性が大幅に向上し、来園者サービスの向上に繋がっている。また、新たに設置されたデジタルサイネージにて、園内の混雑情報を確認できるようになり、入園前の感染防止対策として役立っている。

入場券のキャッシュレス決済について、クレジットカードによる事前決済オンラインチケットを7月に導入した。3月の再開園時には自動券売機における電子マネー（交通系ICカード）決済の運用を開始し、多様な決済方法を提供して利便性を高めた。ジャイアントパンダの観覧については、再開園時は東園パンダ舎内を入園経路として活用し、前列についてはそれまでの運用どおり入園後そのまま観覧（撮影不可）、後列については再観覧希望の方や撮影希望の方の列に変更した。また、暑熱対策として新たに大型ミスト装置を導入し、観覧中の熱中症対策を実施した。

ジャイアントパンダ母子については、1月12日～1月14日の3日間及び3月25日より、抽選制による観覧を開始した。開始当初は、動物の健康状態に配慮し、午前中2,000人のみの観覧とした。1グループ20人程度に分かれて4ブロックを移動しながらの観覧であったが、大きな混乱はなく円滑に運用できた。

収益事業では、令和2年度に引き続き、長期に渡る休園期間の影響を受けて売上が大幅に減少し、厳しい経営状況となった。そのため、整理券制による入園制限の中での営業再開にあわせて利益を確保する必要があることから、最小限の営業体制とした。

一方で、4月から6月の休園期間は、通信販売サイト「Tokyo Zoo Shop」の販売を強化すると共に、新たな販路への調査を開始した。

6月の再開園後は、シャンシャン4歳商品の販売や既存のマグカップに購入特典を付けるなどの工夫により、店舗の売上に大きく貢献した。その後も入園制限が続き、気軽に来園していただくことが難しい状況であることを踏まえ、JR上野駅の商業施設である「アトレ」や「京王百貨店新宿店」に「Tokyo Zoo Shop」のポップアップショップを展開し、利用者サービスの向上と売り上げ確保に努めた。

また、新たな試みとして、ネット通販サイト「Amazon」へのシャンシャン関連商品出品を行った。ぬいぐるみでは、教育普及課・飼育展示課・事業課の3課連携による餌の缶を利用した Amazon 限定特典を用意し、ぬいぐるみカテゴリで1位を獲得して Amazon's Choice に指定されるなど、ブランド認知度向上に寄与した。今年度は園外販売により 4,000 万円を超える売上を記録するなど、新たな販売戦略を構築することができた。

3度目の臨時休園となった1月以降については、通信販売サイトにて双子パンダグッズを販売し、数日で3,000件以上の注文が入るなど、利用者のニーズに応えながら売上を確保した。

3月の再開園時には、ジャイアントパンダ母子の公開時間に合わせて、西園プチカメレオンの営業を再開した。さるやまキッチンでは、双子パンダの成長を来園者と一緒にお祝いするというコンセプトをもとに「双子パンダのお祝い御膳」「双子パンダタンブラーde 杏仁豆腐」を発売し、どちらも盛況な販売を記録した。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

危機管理対策では、令和2年度に引き続き、感染拡大防止のため「新しい動物園の楽しみ方」を来園者にお知らせすると共に、職員向けの対策として、執務室分散、時差出勤制度の活用、「新型コロナウイルス対策会議」の開催等、職員間の感染防止対策及び連絡体制の強化を図った。また、震災対策机上訓練及び通信訓練を実施した。

園内維持管理では、省エネ対策として園内施設のLED化・空調設備及び給排水設備のインバーター化の更新を推進するとともに、園内樹木の枝処理や剪定作業、園路の不陸部分の舗装、園内ベンチの更新、東園中央広場藤棚デッキの更新など、利用者の快適性の向上と安全確保に努めた。また、施設維持管理の一つの取り組みとして、閑々亭の補修整備や東園無料休憩所床の補修を行った。

3. 多摩動物公園

【動物の飼育・展示】

希少野生動物の飼育展示・繁殖に努め、34年連続でのニホンコウノトリの孵化を始め、クロツラヘラサギ、チーター、キリン、コアラなど様々な種において繁殖に成功した。特に、オオアシトガリネズミは動物園での初繁殖となった。一方、アフリカゾウ（メス：54年間飼育）、シャモア（国内最後の1頭）等が死亡している。施設関連では、令和2年度に完成したアジアゾウ舎に沖縄よりスイギュウ（オス、メス）を導入し、引っ越しの完了したアジアゾウとともに展示を開始した。またライオンバスの運行も再開され、サバンナエリア整備工事ではキリン舎が完成し、令和4年度の第2期工事（シマウマなど他動物の獣舎・外構）へ引き継がれた。

園内では5月下旬よりヤクシカの斃死が連続し、東京都家畜保健衛生所に依頼し病性鑑定を実施したところ家畜伝染病予防法に指定されているヨーネ病と判定された。このため同所の指導に従い、全頭淘汰と関係各所の消毒を実施し、現在も指導を受けつつ清浄化を進め、環境検査を継続している。昆虫園では本館に専用のスペースを設けてアナカタマイマイの常設展示を開始した。また、女王が死亡したハキリアリの群れ展示の衰退を追った展示では、社会性昆虫における群れの終焉過程を説明した解説文も設置し、反響が大きかった。

【野生生物の保全】

生息域内、域外の両面において保全活動の取り組みを実施している。トキについては、令和2年度に続き自然孵化に成功し、生育した6羽を佐渡トキ保護センターへ搬出した。アカガシラカラスバトでは、平成30年以降自然繁殖が順調で、遺伝的多様性に留意し、保護個体を優先した繁殖に取り組んでいる。オガサワラシジミでは、累代繁殖に成功してきたが、令和2年8月に域外保全個体群が途絶し、近交弱性（遺伝的多様性の損失）が原因と判明した。小笠原で生息状況が急激に悪化している小笠原産陸産貝類であるアナカタマイマイの生息域外保全の取り組みを継続し、順調に繁殖している。園内に生息するアズマヒキガエルの減少が顕著で、アライグマなどの影響を受けない旧類人猿舎放飼場に卵を放ち、その後の生残経過のモニタリングを開始した。

生物工学分野では、EIA法によるホルモン測定を実施し、アジアゾウやインドサイ等の繁殖生理の解明に役立てている。また、PCR法を用いた鳥類・哺乳類の性判別を実施している。ミトコンドリアDNA解析では、新たな生息を確認した地点を含むメダカ地域個体群解析、小笠原で採取したアカガシラカラスバトのサンプルからハプロタイプ解析、動物園内の野生および飼育下のゲンジボタル交雑調査等を行った。これらは保全指針を決める一助となっている。チンパンジーの人工授精の取り組みに協力し、精子の冷蔵保存に取り組み、人工授精に成功した。

普及啓発分野では、人と動物の共存について考える企画「すすめ！地球生命隊ーともに生きる未来へー」を常設展示し、東京動物園協会が取り組む保全活動を入園者に広く伝えている。

例年実施している野生生物保全センター講演会は、小笠原諸島の世界自然遺産登録10周年を記念し、「未来につなごう！世界に誇れる小笠原の生き物たち」として、東京動物園協会が取り組む小笠原の希少生物保全を総合的に紹介した。ニホンコウノトリでのIPPM-OWS（コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル）の保全セミナー「日中韓のコウノトリの保全の現状と課題について」では、各国のコウノトリ保全の状況をお互いに共有した。いずれの講演会も、新型コロナウイルス感染症対策のためにオンラインで開催した。例年実施してきた佐渡トキ保護センターへの健康診断のための職員派遣は昨年に続き今年も休止した。

【教育普及】

令和2年度に引き続き、感染拡大の影響を大きく受け、様々な制約の中で教育普及活動を行った。動物解説員のガイドツアーや飼育担当者によるキーパーズトーク、モルモットとのふれあいなど、園内で例年実施してきた教育プログラムは休止となった。そのほか、ボランティアガイド、大学生による子ども向けプログラム、外部団体等との共催プログラムも実施を見合わせた。集客イベントができない中でも実施可能な教育普及活動を模索し、特に以下の3点に注力した。

① Twitter、YouTube、公式HPを活用した情報発信

年度初め～6月3日までの臨時休園期間中は、公式Twitterでの情報発信を積極的に行った。ゴールデンウィークから始まった「#おうちでZOO」では、外出自粛中でも自宅で楽しめるように動物たちのようすを動画や写真で紹介するほか、開園記念日の園長トーク、園内の自然情報なども投稿した。ライオンバス運行再開の際は、公式HPに特設記事ページを開設した。動物の記念日（世界〇〇の日など）に合わせて、飼育担当による「とっておきトーク」を東京Zoovie Youtubeチャンネルに順次公開したほか、中止となったイベントの代替企画として動画を制作し、東京ゾーネットYouTubeチャンネルに公開した。5月の「生物多様性の日」、2月の「世界湿地の日」は都立4園連携でTwitterによる情報発信を行った。公式HPではハキリアリの女王死亡による巣の終焉に関する記事等、情報発信を積極的に行い、大きな反響を得た。

② オンラインプログラムの実施

コロナ禍で実施できなくなった対面プログラムの代替として、オンラインプログラム「ゲンジボタルを知ろう」、「オータムスクール」などを開催した。同じくオンライン講演会「干支の講演会」「野生生物保全センター講演会」なども開催した。東京動物園友の会のイベント「友の会の日」もオンラインで開催し、動物舎からのライブ配信を実現した。園内イベントには参加が難しい遠隔地からの参加が可能となるなどのメリットもあった。

③ セルフガイド型プログラムの開発

入園者が園内を周りながら動物について学べるプログラムを行った。園内複数箇所の動物舎にクイズパネルを設置したクイズラリー企画では、感染防止対策としてパネルに非接触で読み取れる二次元バーコードを掲載し、解答や解説をスマートフォンで見られるようにした。ライオンバス運行再開イベントの一環で作成した「フィールドノート～アフリカの動物たち～」は、アフリカ園の動物を観察して自分で書き込める冊子形式にした。

ほかにも、感染防止対策を取りながら実施可能なプログラムとして、パネル展「カブトムシ展」、「干支の企画展『とらえてみよう！トラの魅力』」などを開催した。また、令和2年度に引き続き、干支の企画展はVRを公開した。開園以来毎年実施している子供写生画コンクールは、郵送受付を追加するなど、実施方法を一部変更して開催した。ライオンバス発着所および新アジアゾウ舎の公開に伴って解説サインや展示物などによる入園者への情報発信ができるようになった。

【利用者サービスの提供】

本年も昨年に引き続き感染拡大防止に伴う臨時休園でスタートした年度であった。再開園にあたっては、昨秋同様入園整理券事前予約システムを導入した。都民の来園ニーズに応えるため、感染状況を考慮に入れながら、予約人数上限の拡大、続いて平日の入園予約解除の入園制限緩和を行った。再度の再開園時には整理券制は実施せず、園内滞留人数計測による密対策を実施した。「新しい動物園の楽しみ方」を実践するための入園時の検温、マスク着用、手指消毒、及びソーシャルディスタンスを確保しながらの観覧協力を継続して行った。一方で入場券購入時のキャッシュレス対応を一段と進め

るため、手売窓口におけるQRコード決済を6月に運用開始し、7月はクレジットカードによる事前決済オンラインチケットを導入。3月の再開園時には自動券売機における電子マネー(交通系ICカード)決済の運用を開始した。

収益部門では、平成28年3月末に運行を休止したライオンバスを7月3日に再開した。運行再開に合わせ、ライオンバスを利用するファミリー層をターゲットにした記念メニューを企画、開発したほか、「アジアゾウのすむ谷」オープンに合わせたギフト商品の企画、販売を実施した。また「世界ゾウの日」「干支企画展 “とらえてみよう トラの魅力”」「飼育の日」など教育普及係が実施しているプログラムに関連したメニューの企画・開発を実施した。感染防止対策として「密」を避けるため無料休憩所内の座席数を削減したが、利用者の利便性を図ることを目的にサバンナキッチンでは持ち運びできる環境に配慮した紙容器での商品提供を行った。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

近隣地域で急速に拡大したナラ類、シイ・カシ類の樹木を枯らすナラ枯れについて、園内全域でも600本以上のナラ枯れ被害が確認された。このナラ枯れに伴う倒木や落枝対策として、日々の巡回点検を強化し継続的に観察をおこなうとともに、被害木の伐採計画を策定し、順次伐採作業を進めたことにより安全を確保した。

園内環境や動物飼育環境を支える基盤となる設備については、不具合発生時には迅速に修理・復旧を行っているが、更に不具合を未然に防ぐ予防保全をおこない、設備故障の影響を最小限に留めた。

省エネルギー化の対策としては、正門前のライトアップ照明やチンパンジー舎などの照明器具のLED化や、省エネルギー性能の高い設備器具に更新することで、環境負荷の削減につなげた。

園内の魅力向上策として、園内に自生するヤマユリやキンラン等野草の保護を行ったことや、アジアゾウ舎屋上芝生地にアジアゾウを模した芝生アートを作成するなど、動物園らしい景観や自然豊かな園地を発信した。

危機管理対策としては、令和2年度に引き続き感染拡大の影響に伴い当初計画を変更し、災害発生時初動対応訓練の代替として、9月には初動対応計画に基づいた対応に加え、感染防止を考慮した机上訓練を実施したほか、3月には新施設「ライオンバスステーション」「アジアゾウのすむ谷」において、災害時の優先点検箇所の確認、幹線園路から一時避難場所(正門前)までの経路確認を実地で行った。

4. 葛西臨海水族園

【動物の飼育・展示】

大洋の航海者エリアの「大洋の航海者マグロ」水槽において、6月にクロマグロの1歳魚を40尾追加し、安定した群れ展示を作り上げた。また、9月には新たな採集拠点となる福井県においてバショウカジキの採集と水族園までの輸送に成功し、9月21日と24日にそれぞれ1尾を搬入して「大洋の航海者マグロ」水槽で短期間展示した。今回のバショウカジキは水族園初展示である。9月21日搬入個体は25日（飼育期間4日間）、9月24日搬入個体は26日（飼育期間2日間）で死亡した。

「大洋の航海者マグロ」水槽において令和2年度より試験展示を始めたアカシユモクザメの飼育は良好に経過し、「大洋の航海者サメ」水槽からアカシユモクザメ他板鰐類4種を全て移動させた。「大洋の航海者サメ」水槽は令和4年1月に展示変更のために閉鎖したが（令和4年7月オープン予定）、3月25日から「大洋の航海者サメ」水槽前において、特設展「暗闇で出会う生き物たちEncounters in the dark」を開催し、ライトトラップで採集した様々な生物の展示をおこなった。

7月8日から、情報資料室に専用スペースを設けて、アナカタマイマイの常設展示を開始した。また、小笠原のマイマイについて広く知ってもらうため、環境省、一般財団法人 自然環境研究センターの協力のもと、リーフレットを作成し、配布を始めた。

8月3日に孵化したオウサマペンギンのヒナは、「スウ」と命名し「ペンギンの生態」屋外展示場において12月2日に一般に公開した。また、「スウ」は水族園として初めて人工育雛により生育することに成功した個体でありオウサマペンギンの繁殖は3年連続となった。

【野生生物の保全】

保全活動として、4園共同でアカハライモリやミナミメダカの調査を継続的に行っている。アカハライモリの活動では、6月と10月にフィールド調査を実施し、昨年にひきつづきタグリーダーアンテナを用いた陸上個体探索を行った。また本年度も地元中学校の生物系クラブを対象に観察会を実施した。地元小学校については感染拡大防止の点から本年度は実施できなかった。そのほか、令和2年度は感染拡大により中止となった水辺保全連続講演会を3月13日にオンライン開催した。

トビハゼ調査では、当園が事務局となり、東京湾内で調査研究を行っている8施設による「トビハゼ保全施設連絡会」を開催予定であったが、感染拡大により休止した。7月4日には8施設の協力による親子を対象としたオンラインプログラム「キミもトビハゼ調査隊！」を開催した。また、6月と10月にフィールド調査を実施し、巣穴のカウントや稚魚の出現状況を調査した。

東京産両生類の保全活動では、アカハライモリ、アズマヒキガエル、カジカガエルの産卵に成功している。卵の育成については4園で構成する東京産両生類ワーキンググループの繁殖計画に従い、計画的な育成をしている。6月30日に町田市において、ニホンアカガエルの採集と生息調査を実施している。

ゼニタナゴの保全では、日本動物園水族館協会の種保存事業に協力し、淡水二枚貝を用いて75尾以上の繁殖に成功した。

また、環境省がすすめるウミガラス保護増殖委員会に委員として参加して域内保全に協力している。小笠原希少陸産貝類の保全では、4園のとりまとめを行うとともに、環境省に協力して個体群の再生に協力している。

さらに、国立研究開発法人水産研究・教育機構と締結した包括連携協定の一環として、「ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業」に参加し、ニホンウナギの種苗実験に協力している。

なお、当園は、環境省から令和3年1月13日付で「認定希少種保全動植物園等」制度における「希少種保全動植物園等」に認定された。本制度は、希少種の保護や増殖について一定の基準を満たす動植物園等を環境大臣が認定する制度であり、当園の認定対象種は、「国内希少野生動植物種」が4種（エトピリカ、コウノトリ、タンチョウ、カタマイマイ）、「国際希少野生動植物種」が1種（フンボルトペンギン）である（認定日時点）。令和3年9月14日には、新たに3種（クロツラヘラサギ、トウキョウサンショウウオ、アナカタマイマイ）が追加認定された。

小笠原諸島で例年行っていたユウゼン調査は、本年度も感染状況と都のまん延防止措置解除の状況を見つつであったが、年度末の3月中下旬に小笠原への渡航ができ、潜水による調査を実施することができた。

【教育普及】

コロナ禍による断続的な長期間の臨時休園、また開園中の対面で行う教育活動が制限されたため、大きく計画を変更し、TwitterやYouTubeなどのSNSやオンライン会議システムのZoomなどを利用し、オンライン中心で教育活動を行った。

お正月は昨年に臨時休園のため実施できなかったセルフ観察シート「ウシとくらべてうっしっし〜」の一部内容を改変したものと「トラとくらべてレッツトライ！！」を対面で実施した。

休園中は自宅で生き物の魅力を楽しんでもらえるように「おうちでかさりん」と題して、ツイート回数を増やし、積極的に情報発信を行った。再開園後も引き続き、後述するYouTubeでの情報発信と連動させるなどの工夫をし、多様な情報発信を行った。

YouTubeを使った配信では、より多くの人に楽しみながら生き物の魅力を知ってもらえるように、夏の夜間開園や開園記念日イベントにあわせた水槽前からのライブ中継を実施した。その中で職員によるトーク配信中はチャットや事前に募集した質問に答えるなどで視聴者との双方向のやり取りを行った。更に開園記念日イベントでは24時間生配信（一部深夜帯は録画映像）という新たな取り組みにも挑戦した。また深海をテーマとした「Deep of Wonder—不思議な深海の生き物たち」では深海生物をテーマにしたクイズに答えてオリジナルの深海カードがもらえるプログラムを実施した。また休園期間中は、土日祝に各水槽からのライブ中継を行い、職員による飛び入りガイド「話したくなっちゃったスタッフの飛び入りガイド」もあわせて行った。

子供向けの体験型プログラムは、オンラインで、幼児向けの「進め！海のいきものたち」、小学1・2年生向けの「いきものことはじめ」、小学1・4年生向けの「海のあそびや」、小学5・6年生向けの「集まれ！汐子たち」を各2日間、1日2回、合計4回ずつ、参加者に鮮魚を用意してもらい、体験的になる工夫をして実施した。高校生向・大学生向けの「海の学び舎」は、オンライン講演会形式で、海の気候変動とウニの分類をテーマに合計3回実施し、全国各地から参加があった。

学校との連携は、休園や団体受け入れ中止により、例年のような受け入れはできなかったが遠隔での団体プログラムを合計10件実施した。また博物館実習は感染防止対策をしたうえで例年どおり受け入れた。

一般向けの講演会は海鳥の保全をテーマとした「つどえ、オロロヘン！」や水辺の保全講演会など、オンラインで合計3回実施した。「つどえ、オロロヘン！」では連携協定を結んでいる羽幌町との共催により、現地と結びながら開催し、オンラインのメリットを生かした内容となった。これらの講演会は、開催後もアーカイブとしてYouTubeで配信し、より多くの人に見ていただけるようにした。

サメやエイとのふれあい展示であった「タッチンフィーリン」の閉鎖に伴い、新たな展示「イキモノマデカ」を制作した。直接的なふれあい活動はないが、より生き物を間近に感じられる工夫をした

展示であり、生き物の摂餌行動を間近で観察したり、目に見えない小さなものを大型スクリーンに映すことで体験の場を設けている。会場での密を避けるため、7月にプレオープンとし利用者の動向を調査している。令和4年度にコロナ禍の状況に応じて本格オープンし、教育プログラム活動を開始する予定である。

移動水族館事業は、感染防止対策として、ふれあいや標本等教材を使ったプログラムは休止し、うみくる号の水槽等の定期的な消毒を行いながら実施した。障害などのために来園することが難しい特別支援学校や社会福祉施設の利用者を対象に合計21回を実施した。

【利用者サービス】

夏季における園内サービスとして、無料休憩所において、遮熱・遮光を目的としたつる性植物（フウセンカズラ）による緑陰の創出を継続したほか、観覧通路・無料休憩所における扇風機による送風（夏季空調温度抑制対策による冷房補助対策）、入園者への輻射熱対策としてミスト扇風機の導入（正門、水の広場、売札所）、など涼感の演出による入園者向けサービスを継続実施した。

キャッシュレス対応を一段と進めるため、手売窓口におけるQRコード決済を6月に運用開始し、7月はクレジットカードによる事前決済オンラインチケットを導入。3月の再開園時には自動券売機における電子マネー（交通系ICカード）決済の運用を開始した。

外国人来園者対応研修として月1回の語学研修をオンラインで実施したほか、3月には接客研修もオンラインで実施した。

収益部門では、再開園後の感染防止対策として酒類販売や団体予約受け入れの自粛を行うとともに、入園制限下の販路拡大のため葛西臨海公園駅高架下商業施設（Ff）にて委託販売を行う。

スタッフ業務の効率化のため、飲料・冷菓自動販売機のフルサービス化を行った。同時に自動販売機のQRコード導入も進めた。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

経年劣化による機器故障の補修や配管類の破損修繕などを行うとともに、予防保全として不具合発生前の改修や快適性向上のため和式便座から温水式様式便座の更新など、約130件の工事、修繕等を実施し、設備の適切な運用に努めた。

園内樹木は、植樹から30余年が経過し育成から成熟の時期を迎えたことにより、樹形を考慮しながら剪定と世代交代を意識した間伐を行い、健全な生育と自然環境の創出、保全を行った。

危機管理対策としては、災害初動や事業継続計画の机上訓練を継続実施した。コロナ下における訓練形態として感染リスクを下げるため、震災発生時に対応を行う班毎に分かれて訓練を実施した。また、テロ対策として地元警察や隣接する公園と連携したテロ対処合同訓練を実施し、爆発物発見時の初動対応方法や凶器テロを想定したサスマタの実技講習を実施した。災害時の救命講習会については、年2回開催し、継続的に実施している。また、新潟市水族館マリニピア日本海と令和元年度に締結した大規模災害相互救援に関する広域連携基本協定においても、継続して連携に努めた。

感染防止対策としては、都のガイドラインに準じた対策の徹底により飲食店では新たにコロナ対策リーダーとして登録した。また、6月4日の再開園時には令和2年度に引き続き整理券方式を実施し、3月22日の再々開園時から滞留者管理方式による入場制限を行った。感染防止対策として引き続き検温、手指消毒液の設置・提供、各注意喚起ポスター、足元マークの設置、対面場所でのアクリル等設置、レストランの座席の間引き他を行い、団体入園の受入れも休止した。

5. 井の頭自然文化園

【動物の飼育・展示】

動物園（本園）では、6月8日にマールオスのオス1頭が誕生し、来園者の人気を集めた。平成26年に人工授精により「ユズキ」を出産したアムールヤマネコのメス「ミズキ」が8月10日に死亡した。平成25年に取り壊された「熱帯鳥温室」で平成16年から飼育していたパラワンコクジャクのオスが8月20日に死亡し、本種の展示が休止した。令和2年11月にホンダヌキのオス1頭が死亡したため、本種の展示が一時途絶えたが、8月に多摩動物公園からオス1頭を搬入し、展示を再開した。また、10月に埼玉県こども動物自然公園との間でフェネックの個体どうしを交換し、メス1頭を搬入した。令和元年9月にメスが死亡したため、オス1頭のための単性飼育となっていたニホンカモシカは、11月に名古屋市東山動植物園からメス1頭を搬入した。これらの個体導入により今後ペアリングを進めて、繁殖を目指す予定である。同じく11月にソウル大公園（韓国）からアムールヤマネコのオス・メス各1頭ずつを搬入した。本件は、平成14年3月以来となる19年ぶりの搬入となり、国内個体群の飼育繁殖計画推進へ大きな貢献が期待される。なお、3月に同ペアでペアリングを実施したところ、交尾が確認された。3月には、アライグマ舎ミーアキャット屋内展示場に空調機を設置し、飼育環境の改善に努めた。

水生物園（分園）では春から夏にかけて両生類や水生昆虫の繁殖に力を入れて取り組んだ。両生類飼育個体の血統更新のため、6月にニホンアカガエル12頭、8月にトウキョウダルマガエル20頭を採集し搬入した。

井の頭池でかいぼり後に復活したイノカシラフラスコモの栽培試験に取り組み、多数の株が得られたため、6月4日より展示を始め、普及啓発に努めた。

コロナ下の休園期間を利用して、アカハライモリの展示の脇に新たな展示ケースを設置し、6月4日よりヤモリの展示を始め、イモリとヤモリを比較して観察できる展示を整備した。

水鳥類については、例年通りいくつかの水鳥で産卵が見られたものの、抱卵中に卵が無くなっている事例が多く、ヘビ（アオダイショウ）による被害が疑われた。

また、秋から冬にかけては、国内で高病原性鳥インフルエンザの発生が見られ、12月には千葉県鴨場など近隣県で発生したため、弁天池側のハクチョウなど開放型の展示にいた水鳥類などをサギ舎やオシドリ舎など屋根のあるケージへ移動する収容措置を速やかに実施した。

【野生生物の保全】

当園は、環境省と（公社）日本動物園水族館協会が共同で進める「ツシマヤマネコの保護増殖事業」に参画し、アムールヤマネコでの人工授精の成功を受け、同事業において「人工繁殖推進施設」と位置付けられている。平成27年から毎年1月を中心にツシマヤマネコの人工授精を実施しているが、未だ妊娠・出産に至っていない。令和3年度は、同事業において策定した「令和3年-4年ツシマヤマネコ飼育下繁殖（移動）計画」に基づき、11月にメス1頭をよこはま動物園ズーラシアへ搬出し、1月に同園で人工授精（腹腔鏡下卵管内人工授精）へ供試したが、妊娠は確認できなかった。

アカガシラカラスバトの保護増殖事業では、メス1羽が5月13日に死亡し、一時的に本種の展示が休止している。

平成29年度から新たに小笠原諸島父島に生息する陸産貝類（いわゆるカタツムリ）の絶滅危惧種であるカタマイマイの生息域外保全を開始し、平成30年6月に初めて産卵を確認した。

井の頭生まれの個体どうし（当園飼育下第1世代）をペアリングし、当園飼育下第2世代の孵化を

確認した。11月からはヤマドリ舎で生体の常設展示を開始した。

さらに当園は、(公社)日本動物園水族館協会と環境省との間で締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づくトゲネズミ類の生息域外保全等推進事業に協力し、7月にアマミトゲネズミのオス6頭、メス4頭を受け入れて、飼育を開始した(非公開)。同事業において策定した「令和3年度アマミトゲネズミ移動・繁殖計画」に基づき、8月にオス3頭を足立区生物園へ搬出したほか、8月30日と9月6日にそれぞれメス1頭ずつが死亡した。しかし、12月には交尾を確認しており、今後の繁殖が期待される。

東京産両生類は、引き続き4園が連携して飼育下繁殖の技術向上と野外採集にできるだけ依存しない展示の維持に努めている。令和3年度はトウキョウサンショウウオの飼育改善に取り組み、2月には2つの年級群からそれぞれ多数の有精卵が得られ、育成を進めている。一方で産み出される卵数の低下や、卵質の悪化なども見られ、親個体の高齢化や継代繁殖による遺伝的劣化が考えられることから、4園間での個体の交換や野外からの新規個体の導入などを進めた。

淡水魚類については、(公社)日本動物園水族館協会が策定した飼育下繁殖計画に基づき、引き続きミヤコタナゴやムサントミヨを重点に、国内の淡水魚を飼育する水族館らと連携し、保護増殖に取り組んでいる。

【教育普及】

感染拡大防止のため、臨時休園中はSNSを活用した情報発信強化に努め、開園期間中は対面型イベントや学校団体対応の代替実施、文字による情報提供、動画の配信などを中心に実施した。

対面型の定例イベントについては、「動物解説員ガイドツアー」の代替として動物舎前でのワンポイント解説「ミニガイド」を実施した。「彫刻園ギャラリートーク」は、代替として屋外の彫刻作品を紹介する「屋外彫刻ガイド」を実施し、合わせて「彫刻園セルフガイド」の配布をおこなった。「飼育係のいきものガイド」は令和2年度に引き続き休止としたが、動物の採食の様子を観察する「みてみてえさの時間だよ」は、ほぼ毎日実施し、来園者の状況を見ながら解説をおこなった。ボランティア活動は年間を通して休止となったが、引き続き入園者対応を伴わない「いきもの広場」などの維持管理作業などをおこなった。

定例外のイベントについて、野生生物の保全に関する普及啓発の「ヤマネコ祭」は、令和2年度に引き続き参加型のイベントは休止し、資料館でのパネル展「ヤマネコのちいさなおへや」を周年開催し、自宅でぬり絵や折り紙を楽しみながらツシマヤマネコのことを知ってもらう「ヤマネコフォトコンテスト」を4月から5月にかけて実施した。「ヤマネコのちいさなおへや」は寅年にちなんで1月にリニューアルし、対馬の自然や文化を併せて紹介した。「ヤマネコ講演会」はオンラインで10月に開催し、大学生ボランティアによる交通事故防止の取り組みを紹介した。都立動物園・水族園合同企画の「身近な水辺保全講演会」も3月にオンラインで開催し、オタマジャクシの生き残り戦略などを紹介した。園内のフィールドを活用したプログラムでは、観察会「身近ないきもの探検」はオンラインでの実施となったが、参加者の子どもたちに主体的な観察を促すプログラムとなるように改変し、6月に身近な昆虫、7月にカブトムシ、11月に植物の種子をテーマとして実施した。「いきもの広場」は、令和2年度に環境改善のための大規模な整備をおこなったところ、モニタリング調査による出現生物数が275種と、整備前の3倍以上に増加した。「水辺のいきもの広場」は、コロナ禍において来園者利用ができず、東京農工大学との共同で教育プログラムの作成は中止となったが、2月の「世界湿地の日」のイベントとして、教育普及センターとの共同により「オンライン水鳥観察会」を開催した。

彫刻園の企画展は、作品名などが書かれた題字板や制作者の想いが書かれた碑文などを展示した「彫

刻のだいじな題字」を6月に開催した。また、コロナ下の世相を反映させ、西望の“おうち時間”とともにした彫刻や家事道具などを展示した「北村西望の家族と生活」を9月から開催した。さらに、東京藝術大学美術学部の森教授らによって令和元年からおこなわれている石膏原型の修復の成果を展示した「時の内部をさわるー森淳一による北村西望修復プロジェクト」を12月から開催した。

その他、6月「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」、10月秋の夜間開園「秋の夜長の自然文化園」、2月文化園コンサート「February Concert at the Zoo」は休止した。

学校団体対応は、臨時休園中でもオンラインやアウトリーチなどで受け入れ、11月の団体受付再開以降は、近隣の小学校などからの依頼により園内での対応をおこなった。博物館実習は、9月と11月に合計10名受け入れ、コロナ下における教育プログラムの実践をテーマとして実施した。

園内情報発信整備として、水生物館のラベル類利用調査を実施し、1月に結果をまとめた。令和4年度は水生物館飼育展示係と協議の上、整備を進めていく予定である。

当園は、令和4年5月17日に開園80周年を迎えるため、5月に周年記念事業プロジェクトチームを立ち上げて、事業の企画推進を図った。1月に記念ロゴマークを発表、2月に周年記念事業概要のプレス発表をおこなった。

【利用者サービス】

感染拡大防止のため、4月1日から6月3日まで臨時休園となった。臨時休園中には再開園時に備え、来園者の感染防止対策の一環として、園内に手洗い場を新たに設置した。

6月4日からの再開園にあたっては、当園としては初めてとなる整理券制を導入した。

さらに、7月17日にクレジットカードによる事前決済オンラインチケットを導入、同月22日にはQRコード決済も開始し、利用者の利便性を大きく向上させた。

7月24日からは、整理券の上限枚数を2,000枚から3,000枚に拡大し、さらに多くの来園者を迎えられる体制を整えた。その後、10月9日から4,000枚、11月6日から6,000枚に整理券の枚数を拡大した。なお、11月16日からは、平日の整理券を不要にした。

7月20日から8月31日までの夏休み期間中は、コロナ禍ではあったが、感染防止対策を徹底した上で、利用者から要望の多かったジャブジャブ池をオープンし、サービスの向上に努めた。

年が明け、オミクロン株の急速拡大に伴う緊急対応における「都の率先行動」として、1月11日から3月21日まで、再び臨時休園となった。3月22日からの再開園にあたっては、これまでの整理券制から滞留人数管理方式（最大滞留者4,500人）に変更した。また、同日から平日・土日問わず希望するすべての団体の受入れを再開した。

園内の売店においても、引き続き商品購入のためのレジ待機列には、ソーシャルディスタンスのための目安となるラインテープを貼るとともに、手指消毒液の設置、レジ前に飛沫防止シートを継続して設置するなど、感染防止に努めた。

ぶらんこ広場については、遊具の一部を当園の環境色彩ガイドラインに基づいた落ち着いたカラーに塗り替え、新たにチェア式のぶらんこを導入し、人気を得ている。

ミーアキャット室内展示場のガラス窓前に来園者用観覧台を新たに設置し、ベンチの天板も張り替えるなど、景観を向上させた。また、テン放飼場、ヤマネコ放飼場などの手摺を塗装し、美観向上に努めた。

園内の植物の見どころを紹介する「花ごよみ」は、引き続きタイムラプスによる花の動画を合わせて配信している。休園中には、Twitterなどの媒体を活用して、タイムリーに花の見ごろ状況を提供し、動物園の魅力発信に努めた。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

高木の樹木については年間2回の総点検を実施し、支障枝・腐朽等を早期に発見し処理を行うことで、入園者の安全確保に努めているが、大型化する台風などの自然災害に備えるため、コミュニティバス通り側の衰退樹の伐採、大掛かりな剪定を実施した。

安全面では、家畜舎周辺を中心にインターロッキングの浮き上がりを補修し、安全性を向上させた。

危機管理対策として6月23日、コロナ下での大地震発生を想定した机上訓練を実施した。

この訓練において、一時集合場所でのクラスター発生や、発熱者やけが人救護の対応時に職員の感染リスクが高まることが課題として抽出された。これらの課題に対する感染防止対策を講じたうえで、一時集合場所に集まった来園者対応に限定して部分的な災害初動対応訓練を12月6日に実施した。令和元年6月以来の実地訓練であり、訓練未経験者を中心に、初動対応を確認する有意義な機会となった。

Ⅱ．事業実績

〔１〕飼育・展示事業

１．展示動物の収集・管理

（１）動物収集業務

国内外の飼育動物の情報収集に努め、動物交換、贈与、共同繁殖のための動物貸借（BL：ブリーディングローン）等により動物の導入を積極的に行った。

【主な収集動物】

園 名	種 名	数量	区分	摘 要
上 野	ウシ（ホルスタイン）	1	借受	（株）雪印こどもの国牧場
	ケープハイラックス	2	交換	広島市安佐動物公園
	キンカジュウ	1	交換	平川動物公園
	ワタボウシタマリン	1	交換	江戸川区自然動物園
	ミゾゴイ	1	譲受	横浜市繁殖センター
多 摩	ライオン	1	譲受	韓国ソウル大公園
	スイギュウ	2	その他	由布島（♂はBL ♀は購入）
	ライオン	2	BL	富士サファリパーク
	イヌワシ	1	交換	秋田市大森山動物園
	キリン	1	交換	市原ぞうの国
葛 西	フェアリーペンギン	6 (卵)	贈与	アドベンチャーワールド・ 長崎ペンギン水族館（各3 卵）
	クロツラヘラサギ	2	移管	多摩動物公園
	バショウカジキ	2	採集	
	クロマグロ	40	購入	伊豆中央水産株式会社
	ヨシキリザメ	1	購入	株式会社エラスモブランチ
井の頭	ニホンコウノトリ	1	贈与	野田市
	メンフクロウ	1	贈与	富山市ファミリーパーク
	オカヨシガモ	1	交換	横浜市野毛山動物園
	アムールヤマネコ	2	贈与	韓国ソウル大公園
	ニホンカモシカ	1	BL	東山動植物園 （所有権は飯田市）

(2) 動物管理業務

動物台帳の管理を適正に行ったほか、国内外における稀少種血統登録への参画や、約100カ国で1,200以上の動物園水族館等が加盟するSpecies360（旧称:国際種情報システム機構）の会員として、動物情報管理システム（ZIMS）を用いて世界中の園館と動物情報を共有する等、適切な個体群管理に取り組んでいる。

【展示動物飼育数】（令和4年3月31日現在）

園名	類	目	科	種	点	備 考
上 野	哺 乳 類	17	58	100	1,112	
	鳥 類	20	49	105	508	
	は 虫 類	4	28	66	270	
	両 生 類	2	16	36	557	
	魚 類	7	7	7	158	
	無 脊 椎 動 物	4	4	4	310	
	計	54	162	318	2,915	
多 摩	哺 乳 類	9	27	56	532	
	鳥 類	16	25	86	965	
	は 虫 類	1	5	6	30	
	両 生 類	2	5	8	88	
	魚 類	1	1	5	14	
	無 脊 椎 動 物	23	58	121	15,591	昆虫綱シロアリ目・ハチ目の社会性昆虫2科3種4群含む
	計	52	121	282	17,220	
葛 西	哺 乳 類	0	0	0	0	
	鳥 類	5	5	9	261	
	は 虫 類	1	1	3	14	
	両 生 類	2	6	9	212	
	魚 類	24	127	448	7,813	
	無 脊 椎 動 物	68	164	426	20,444	
	計	100	303	895	28,744	
井 の 頭	哺 乳 類	7	17	33	420	
	鳥 類	14	25	62	258	
	は 虫 類	2	6	9	32	
	両 生 類	2	7	9	365	
	魚 類	7	11	39	1,597	
	無 脊 椎 動 物	6	13	16	379	
	計	38	79	168	3,051	
合 計					51,930	

2. 飼育展示・調査研究

(1) 日常飼育業務

動物の健康と飼育環境管理を適正に行い繁殖に努めるとともに、創意工夫により、動物の特性を引き出すための展示改善を積極的に行った。

① 主な繁殖動物

園名	動物名	出産・孵化数				備考
		オス	メス	不明	計	
上 野	ジャイアントパンダ	1	1		2	
	ライチョウ		2		2	
	クロキツネザル		1		1	
	マヌルネコ	1	1		2	
	イボイモリ			27	27	
多 摩	コアラ		1		1	
	キリン	2	3		5	
	オオアシトガリネズミ			4	4	3頭死亡
	ライオン	1			1	
	トキ	2	4	1	7	1羽死亡
葛 西	オウサマペンギン			1	1	
	ミナミイワトビペンギン	3	1	3	7	
	エトピリカ	1	1	1	3	1羽死亡
	クチバシカジカ			50	50	生存40
	ペインテッドグリーンリング			300	300	生存1
井の頭	ニホンリス	22	25		47	
	マーラ	1			1	
	オカヨシガモ		1		1	
	オシドリ	4	6	1	11	1羽死亡
	マガモ		2		2	

② 主な展示改善

園 名	主な展示改善の件名	内 容
上 野 動 物 園 合計32件	ペンギンプールに水流装置の設置	水流ポンプを設置し、ペンギンが水流に逆らって泳ぐ姿や、その後、毛づくろいをする行動がより多く見られるようになった。
	両生爬虫類館でアクリル研磨の実施	休園期間を利用して、動物移動を行い、白濁したアクリルの研磨を多種の水槽で実施した。これにより、動物が以前より見やすくなった。
	回転式パズルフィーダーの制作と設置（ウマ）	子供動物園の在来馬に回転式パズルフィーダーを作成、設置した。これにより採食時間が増え、行動のレパトリーが増えた。
多 摩 動 物 公 園 合計24件	フクロギツネ展示場のレイアウト変更	園内で出た伐採木を利用し、木組みを新しくした。巣箱の前面と天井部分をアクリル板にしたことで巣箱内がよく見えるようになった。
	展示モニターと新規パネルの設置(チンパンジー)	「来園者からの質問の答え」をパネル掲示からモニター展示に変更した。チンパンジーの表情や感情を解説するパネルを設置した。
	昆虫生態園大温室の植物ラベル更新	来園者が、植物の種名を確認しやすいように、大温室内の植物種名ラベルを統一、更新した。
葛 西 臨 海 水 族 園 合計12件	マグロ大水槽におけるバショウカジキの展示	バショウカジキの採集と輸送に成功し、短期間ではあるが新規展示した。
	「南極1」の海における擬氷の設置	生き物がくらす生息環境をより正確に伝えるため、「南極1」水槽に擬氷を設置した。
	アナカタマイマイの常設展示開始	情報資料室にて、アナカタマイマイの展示を開始し、制作したリーフレット（日本語版、英語版）を配布した。
井 の 頭 自 然 文 化 園 合計18件	アカゲザル展示場内にフィーダーの設置	アカゲザル展示場内に浮きブイ製のパズルフィーダーを設置。採食時間が増え、器用に餌を食べる姿も見られるようになった。
	カタマイマイの常設展示開始	カタマイマイの生体展示を開始した。イラストを取り入れたわかりやすい解説パネルを設置し、生態や保全情報を伝えた。
	クリスマスリースによるフォトスポットの設置	園内で採取できる植物由来の素材で大きなクリスマスリースを作り、顔はめ記念撮影ができるように設置した。リースに使った素材の植物をハンズオン展示した。

(2) 研究成果の発表

動物園で得られた野生生物や教育普及活動に関する情報や研究成果等について、研究会等で積極的に発信した。

① 上野動物園（合計14件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
動物園の4つの役割を意識したオンラインでの情報発信について	鈴木 佐知子	第19回関東東北・北海道ブロック合同動物園技術者研究会（オンライン開催、口頭発表）
高齢アグー豚の安楽死処置と公表について	仲村 賢、篠田 奈々、堀 秀正、吉澤 円、平野 雄三、大橋 直哉	第20回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会（オンライン開催、口頭発表）
「恩賜上野動物園エンリッチメントブック」と「エンリッチメント事例集」作成の取り組み	三塚 修平、木岡 真一、児島 匠、 <u>中村 壮登</u> （東京都）	第69回動物園技術者研究会（オンライン開催、口頭発表）
アジアゾウの繁殖	志田 昌信	第30回ゾウ会議（オンライン開催、口頭発表）
アジアゾウの結核の一例	平野 雄三	第30回ゾウ会議（オンライン開催、口頭発表）
飼育下ニホンライチョウの産卵タイミングと産卵特性に影響を及ぼす要因	<u>金原 弘武</u> （岐阜大学大学院連合農学研究科）、 <u>楠田 哲士</u> （岐阜大）、高橋 幸裕、 <u>秋葉 由紀</u> 、 <u>村井 仁志</u> 、 <u>堀口 政治</u> （富山市ファミリーパーク）、 <u>宮野 典夫</u> （市立大町山岳博物館）、 <u>白石 利郎</u> （横浜市繁殖センター）、 <u>堂前 弘志</u> （いしかわ動物園）、 <u>佐藤 鉄也</u> （那須どうぶつ王国）	The 14th Asian Society of Conservation Medicine/ 27th Japanese Society of Zoo and Wildlife Medicine 2021 Joint Conference（第14回アジア保全医学会／第27回日本野生動物医学学会2021合同大会、オンライン開催、ポスター発表）
オガサワラカワラヒワの現状について	高橋 幸裕	第22回種保存会議（オンライン開催、ポスター発表）
2021年 ルリカケス巣箱点検、捕獲、保護個体の移送から成育まで	高橋 幸裕	あまみやましぎ（奄美野鳥の会会報 No. 127）
どうやって学校にキリンを連れて行くか～上野動物園オンライン授業の試み	小泉 祐里	文化庁広報誌「ぶんかる」
アジアゾウ“ウタイ”の妊娠・出産	山口 翔平	どうぶつと動物園 2021年夏号（2021. 7）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
ヒガシクロサイの繁殖に向けて	藤岡 紘	どうぶつと動物園 2021年秋号 (2021. 10)
イボイモリの飼育下繁殖	齋藤 祐輔	どうぶつと動物園 2022年冬号 (2022. 1)
ミナミコアリクイの“サン”が生まれるまで	小川 美紀	どうぶつと動物園 2022年冬号 (2022. 1)
サル山におけるニホンザル順位の変遷	三塚 修平	どうぶつと動物園 2022年冬号 (2022. 1)

② 多摩動物公園（合計20件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
Age estimation using methylation-sensitive high-resolution melting (MS-HRM) in both healthy felines and those with chronic kidney disease	<u>斉 惠元</u> (京都大学)、 <u>木下 こづえ</u> (京都大学)、 <u>松井 由紀子</u> 、 <u>森 尚志</u> (ダクタリ動物病院)、 <u>松本 佳織</u> (ダクタリ動物病院)、 <u>村山 美穂</u> (京都大学)	Scientific Reports 2021（論文掲載）
Oral and gut microbiota in red kangaroo	吉本 悠人	第14回アジア保全医学会・第27回日本野生動物医学会 2021年合同大会（オンライン開催、口頭発表）
ゾウ舎新設とそれに伴うゾウ移動の経緯について	兒島 匠	第30回ゾウ会議（オンライン開催、口頭発表）
インカアジサシの繁殖の工夫について	田中 美晴	第18回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会（オンライン開催、口頭発表）
多摩動物公園における「世界チンパンジーの日」に関する4年間の取り組み	佐藤 澄音	第19回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会（オンライン開催、口頭発表）
アジアゾウの高齢化に合わせた施設改修及び飼育管理方法の変更について	三松 豊	第20回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会（オンライン開催、口頭発表）
1年間のM99使用例	戸田 光亮	第33回大型動物麻酔研究会（オンライン開催、口頭発表）
オオアシトガリネズミの繁殖事例	川上 壮太郎	第69回動物園技術者研究会（オンライン開催、口頭発表）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
タスマニアデビルの導入について	永田 典子	第69回動物園技術者研究会（オンライン開催、ポスター発表）
タスマニアデビルの導入について	永田 典子	第22回種保存会議（オンライン開催、口頭発表）
増加する野生ニホンコウノトリの傷病個体救護と動物園の役割	中島 亜美	第22回種保存会議（オンライン開催、ポスター発表）
SNN（SEAZA Nutrition Network）との今後の連携について	伊藤 香緒里	令和3年度日動水栄養シンポジウム（オンライン開催、口頭発表）
オガサワラシジミの生息域外保全ーこれまでとこれから	古川 紗織	野生生物保全センター オンライン講演会「未来につなごう！ 世界に誇れる小笠原の生き物たち」（オンライン開催、口頭発表）
20年間取り組んできたイモリの保全活動ー動物園水族園は、保全活動で何ができるのか？ー	荒井 寛	都立動物園・水族園合同企画 身近な水辺保全講演会第1回「カエル・イモリ・サンショウウオー田んぼでくらす生き物たちの今とこれからー」（オンライン開催、口頭発表）
トウキョウトガリネズミ <i>Sorex minutissimus hawkeri</i> の繁殖	河原 淳、川上 壮太郎、六田 晴洋、熊谷 岳、菊地 文一（多摩動物公園OB）、常磐 尚子	森林野生動物研究会誌 NO. 47
飼育下で越冬させたオオアシトガリネズミ <i>Sorex unguiculatus</i> の繁殖	河原 淳、川上 壮太郎、熊谷 岳、菊地 文一（多摩動物公園OB）	森林野生動物研究会誌 NO. 47
オガサワラシジミ生息域外保全のその後	古川 紗織	令和3年度全国昆虫施設連絡協議会（オンライン開催、口頭発表）
クロツラヘラサギの繁殖種の特性に合わせた工夫	石井 淳子	どうぶつと動物園 2021年春号（2021. 4）
一年中チョウが舞う大温室の舞台裏	石島 明美	どうぶつと動物園 2021年春号（2021. 4）
インドサイの共同繁殖を目指して 新たなペア形成のための搬出入とその後	井上 邦雄、齋藤 友樹、嵐田 彩奈、河本 彩花	どうぶつと動物園 2021年秋号（2021. 10）

③ 葛西臨海水族園（合計14件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
「アマモ場」展示水槽改修に伴うアマモの再導入について	宮崎 寧子	令和3年度日本動物園水族館協会 関東東北・北海道ブロック会議（オンライン開催、口頭発表）
「南シナ海」水槽からの大型魚 タマカイの移動について	関 啓汰	令和3年度日本動物園水族館協会 関東東北・北海道ブロック会議（オンライン開催、口頭発表）
ウィーディシードラゴンの繁殖について	木船 崇司	第66回日本動物園水族館協会水族館技術者研究会（オンライン開催、口頭発表）
アマモ場展示水槽で発生した非結核性抗酸菌感染事例への一連の対応について	杉本 悠真	第66回日本動物園水族館協会水族館技術者研究会（オンライン開催、口頭発表）
中課題 3-2-2 循環式飼育システムの開発	中沢 純一	ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業第1回検討会（オンライン開催、口頭発表）
中課題 3-2-2 循環式飼育システムの開発（中間報告）	戸村 奈実子	ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業第2回検討会（オンライン開催、口頭発表）
2021年度生息域外保全を見据えたケイマフリ繁殖生態調査（報告）	野島 大貴	令和3年度ウミガラス保護増殖検討会（オンライン開催、口頭発表）
フンボルトペンギンの管理計画_2022	野島 大貴	ペンギン類の飼育及び個体群管理勉強会（オンライン開催、葛西臨海水族園主催、ペンギン会議後援、口頭発表）
葛西臨海水族園のオンライン双方向性プログラム その実例と可能性	坂本 和弘・天野 未知 大河原 陽子	5G普及啓発イベント（東京都デジタルサービス局デジタルサービス推進部ネットワーク推進担当課、口頭発表）
博物館実習を通じた実習生の学びの考察	田中 隼人	第62回日本動物園水族館教育研究会（オンライン開催、口頭発表）
関係者インタビュー記事『バショウカジキを求めてー』	増渕 和彦	広報おい2021年11月号
葛西臨海水族園における野外収集活動と展示	児玉 雅章	水族館シンポジウム 水族館とフィールドワーク。その実際と可能性。（オンライン開催、口頭発表）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
小笠原諸島におけるユウゼンの生態調査 ～保全への貢献を目指して～	松村 哲	水族館シンポジウム 水族館とフィールドワーク。その実際と可能性。(オンライン開催、口頭発表)
小笠原諸島におけるユウゼンの生態調査	松村 哲	野生生物保全センター オンライン講演会「未来につなごう！ 世界に誇れる小笠原の生き物たち」(オンライン開催、口頭発表)

④ 井の頭自然文化園（合計3件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
ニホンカモシカにおける動物福祉向上を目的とした取り組み	伊藤 達也	第18回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会(オンライン開催、口頭発表)
コロナ下におけるオンラインいきもの観察会 身近な自然に対する興味関心へつないでいくために	武笠 友美	第19回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会 (オンライン開催、口頭発表)
井の頭自然文化園における高齢テンジクネズミの飼育管理について	大平 まどか	第20回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会(オンライン開催、口頭発表)

⑤ 総務部（合計3件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
野生動物の生息地としての動物園ランドスケープの整備とその利用	馬島 洋	動物園ランドスケープNo. 1 (43-46):2021
WEBコンテンツ「東京Zoovie Maps & Tours」の制作	馬島 洋	第62回日本動物園水族館教育研究会 ウェブ大会 (ポスター発表)
恩賜上野動物園におけるAIカメラを活用した混雑度可視化の取り組み	小川 雄一	公園緑地 Vo1.82 No. 2 2021

※下線は外部研究者

(3) 共同研究

大学や研究機関と協力し、動物学、獣医学等の学術的な見地から共同研究を進めた。

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
東京大学博物館	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京大学大学院農学生命科学研究科	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
首都大学東京	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
日本医科大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京農工大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
森林研究・整備機構 森林総合研究所	東京動物園協会	イモリの保全及びその生態学的研究
国立科学博物館	東京動物園協会	動物等の研究
情報・システム研究機構 国立極地研究所	東京動物園協会	連携・協力に関する協定
岐阜大学応用生物科学部	東京動物園協会	動物園水族館動物に係る研究及び教育
水産研究・教育機構	東京動物園協会	包括連携協定
ウナギ種苗研究グループ	東京動物園協会	ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システム実証事業研究
日本医科大学 動物生産化学教室	上野動物園	ライチョウの域外飼養技術の開発に関する研究－飼育飼料の検討－
日本医科大学 動物生産化学教室	上野動物園	アカガシラカラスバトの域外飼養技術に関する研究－飼育飼料の検討－
岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室	上野動物園	希少動物の保全繁殖
明治大学	上野動物園	動物装着型データロガーを用いた定量的行動観察（オオカワラヒワ）
岐阜大学応用生物科学部	多摩動物公園	希少動物の繁殖生理の内分泌モニタリング/多摩動物公園における希少動物の性ホルモン分析技術の推進
東京都健康安全研究センター	多摩動物公園	サル類の腸管寄生原虫に関する研究（検査・駆除対策）

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
日本工業大学	多摩動物公園	モグラの地中掘削行動の機構学的解析
横浜市環境創造局繁殖センター	多摩動物公園	希少動物の保全に関わる試験研究
カマキリ研究グループ	多摩動物公園	外来種「ムネアカハラビロカマキリ」に関する研究
河原 淳	多摩動物公園	トウキョウトガリネズミ繁殖生態研究
日本医科大学 動物生産化学教室	多摩動物公園	飼育下チンパンジーの栄養管理に関する研究
東京農工大学農学部	多摩動物公園	カンガルーの口腔内及び腸内細菌叢と疾病の関連性に関する共同研究
東京農工大学農学部	多摩動物公園	昆虫等の調査・診断に関わる共同研究（オガサワラシジミ）
帯広畜産大学畜産学部	多摩動物公園	バクの乳汁成分について研究
北海道大学	多摩動物公園	コアラの遺伝学（ミライ）
日本医科大学	多摩動物公園	動物園における野生動物の侵入とマダニ寄生リスクの調査
東北大学大学院生命科学研究科	葛西臨海水族園	フンボルトペンギン胚における特徴的四肢形態の発生操作
東邦大学	葛西臨海水族園	ペンギン類における海生適応形質形成機構の解明
電力中央研究所 株式会社イワキ	葛西臨海水族園	大規模水槽向け脱窒装置及び小型水槽用脱窒モジュールに関する共同研究
北海道大学	葛西臨海水族園	飼育動物の QOL 評価を目的とした包括的研究
株式会社海遊館	葛西臨海水族園	ペンギン類人工繁殖に関する共同研究
日本大学生物資源科学部海洋生物資源科学科 水圏生物病理学研究室	葛西臨海水族園	葛西臨海水族園の飼育する水生生物疾病研究に関する協定
東京大学	葛西臨海水族園	マハゼのヘネガヤ症研究に関する協定
株式会社共立電照および株式会社共ショウ	葛西臨海水族園	大型水槽用 LED 照明の開発

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
東京工業大学 情報・システム研究機構・国立極地研究所	葛西臨海水族園	ペンギン科およびウミスズメ科の流体力学に関する研究
東京農業大学	葛西臨海水族園	DNA 解析によるペンギン科およびウミスズメ科の遺伝的多様性に関する研究
自然科学研究機構基礎生物学研究所	葛西臨海水族園	動物行動学（マトウダイ）に関する研究
東京大学および北里研究所	葛西臨海水族園	水族館飼育魚および飼育水の環境 DNA モニタリング技術の開発
北海道大学・バードライフ・インターナショナル	葛西臨海水族園	刺し網による海鳥混獲の削減を目指した研究
岐阜大学	井の頭自然文化園	希少動物の保全繁殖
東京農工大学	井の頭自然文化園	文科省科研費『SDGs のための子ども動物園・水族館教育（環境教育）のガイドラインに関する研究』
株式会社共立電照および株式会社共ショウ	井の頭自然文化園	水槽用 LED 照明の開発

（４）飼育展示・教育普及研究会の開催

園内及び４園相互での情報交換と共有化を積極的に進めるとともに、研究発表等に積極的に参加することによる職員の能力向上を図るため、各園で飼育展示・教育普及担当者による研究会を定期的に開催した。

３．動物病院業務

飼育職員と連携して病気等の予防策を講じるとともに、異常の早期発見に努め、適切な治療を行った。また、検疫業務、病理解剖、検体の保存等を行った。

（診療件数及び検疫件数）

園 別	年間診療件数		年間検疫件数	
	治療	死亡	種数	頭数
上野動物園	13, 217	85	31	74
多摩動物公園	9, 364	317	18	46
葛西臨海水族園	506	38	2	34
井の頭自然文化園	4, 148	61	11	17

〔２〕野生生物保全事業

「野生生物保全センター」を都立動物園・水族園の野生生物保全活動の中心に位置付け、保全活動、情報収集、調査研究及び普及啓発活動を実施した。

項 目	内 容
動物園内における 保全活動 (域外保全)	① ニホンコウノトリ、トキは、多摩動物公園を中心に高度な飼育繁殖技術を活かした継続的な繁殖と個体や卵の移動などにより、野生復帰事業に貢献している。 ② アカガシラカラスバトは、毎年順調に繁殖しており、緊急保護個体を繁殖個体群に取り込むとともに、飼育繁殖技術の向上により自然繁殖もすすみ、飼育下個体群形成が順調に進んでいる。 ③ オガサワラシジミは、多摩動物公園で累代繁殖および周年飼育に成功したが、令和２年８月に飼育下個体群が途絶えた。環境省の科学的な検証（令和３年）により、近交弱性（遺伝的多様性の損失）が原因と判明した。新たな保護個体の収容に備えた体制を整えている。 ④ オガサワラカワラヒワは、減少が著しく、環境省及び東京都による保全の取り組みが始まった。上野動物園では現地施設での飼育環境整備や飼育繁殖に協力するとともに、園内で近縁亜種を飼育し調査研究を行っている。 ⑤ 環境省からの分散飼育の協力要請を受け、小笠原諸島の陸産貝類（カタマイマイ、アナカタマイマイ）の飼育を４園で開始した。関係機関との情報共有を図るとともに、両種の飼育繁殖に取り組んでいる。 ⑥ ライチョウは、上野動物園や富山市ファミリーパークなどで平成27～28年に野生卵を入手し、それらを基に飼育繁殖に着手し、山岳地帯への適応に伴う特殊な生理生態について、連携する関係者とともに解明に取り組んでいる。令和元年３月には公開展示が始まり、保全の取り組みや山岳環境の重要性や保全の普及啓発を推進している。 ⑦ 東京産両生類では、希少種も含め、繁殖に継続して成功している。一方では、まだ繁殖できない種もある。遺伝的多様性に配慮し、繁殖個体の園間交換をすすめ、４園で分担・連携して取り組んでいる。
フィールドにおける 保全活動 (域内保全)	① 多摩市のアカハライモリ生息地において、生息状況調査や生態調査を継続して実施し、生息個体数を増加させることに成功するとともに、地域との連携・環境教育活動を推進している。 ② 多摩動物公園内に生息するアズマヒキガエルは、原因は不明であるが、ほぼ絶滅に近い状態であることがわかってきた。事前に４園の飼育下に確保していた個体群で繁殖を推進している。また、減少要因を探るために放飼場を活用した育成実験を開始した。 ③ アカガシラカラスバト野生個体群の遺伝的多様性を解明するため、小笠原自然文化研究所と連携し、ミトコンドリアDNAの解析を実施している。

項 目	内 容
生物学技術を応用した保全活動	① DNA解析により、性判別（鳥類・哺乳類）を日常的に行い、繁殖計画の推進に寄与した。また、飼育希少鳥類の遺伝的多様性の解析、メダカの地域個体群解析、アズマヒキガエルの野外での亜種間交雑状況の調査を継続して行っている。また、多頭同居飼育しているアカカンガルーでは、親子関係を解析し、血統管理に役立てている。 ② 自然交配ができないチンパンジーから採取した精子を用いて人工授精に成功した。また、精子の凍結保存において、初めて実用性を期待できる質かつ量の保存取り組みにチンパンジーで着手している。 ③ 性ホルモンを測定し、インドサイ、アジアゾウ、ミナミコアリクイ等の繁殖周期の把握、生理解明に役立てている。
調査研究・情報収集	例年海外で開催される会議などにも積極的に参加し、研究発表や情報収集、交流に取り組んでいるが、令和3年度は休止やオンラインでの参加となった。
普及啓発活動	① 東京動物園協会が取り組む保全活動を、入園者にも広く伝えるため、多摩動物公園で「すすめ！地球生命隊-ともに生きる未来へ-」を常設展示している。 ② ツシマヤマネコの保全に関する普及啓発として井の頭自然文化園で「ヤマネコの日」にちなむ活動を継続して実施している。 ③ 野生生物保全センター講演会は、2月6日に小笠原の世界自然遺産登録10周年を記念してオンラインで開催し、4園に関わる小笠原の希少種保全の取り組みについて、現地関係者とともに総合的に紹介した。 ④ 小笠原自然文化研究所が取りまとめている例年の「あかぼっぽの日」を12月19日、オガサワラカワラヒワも取り入れ「ヒワポッポの日」としてオンライン開催し、アカガシラカラスバトとオガサワラカワラヒワの動物園での取り組みを講演した。 ⑤ 1月15日に、IPPM-OWSのコウノトリ保全セミナー2022「日中韓のコウノトリの保全の現状と課題について」を開催した。
保全への協力	コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル（IPPM-OWS；任意団体）の構成員として、また事務局の一員として他の加盟機関と連携し、保全活動を推進した。千葉県野田市でのコウノトリの放鳥事業に協力し、有精卵の提供や移送などの支援を実施している。

〔3〕教育普及事業

教育普及センターを中心に、4園の連携を一層強化し、動物園・水族館の役割の一つである社会教育機能を充実させ、大人から子どもまで幅広い入園者を対象に、様々な観点から学べる多彩なプログラムを開発・計画した。また、また、新型コロナウイルス感染拡大防止とポストコロナの教育普及活動の様式を探りながら多くの催し物をオンラインで開催した。

1. 4園連携による幅広い教育普及活動の展開

4園の独自性を活かしつつ、教育普及センターを中心に、緊密な連携体制を築き、社会教育施設としての役割を的確に果たすため、4園が連携した教育プログラムを実施した。また、他の教育機関との連携強化を進めた。

（1）教育機関との連携体制の充実、強化

2022年カレンダーの配布

東京動物園協会2022年カレンダーを東京都内の全小学校に郵送した。各月の写真の動物を紹介する動画「いきものムービー」へのリンクをQRコードで示し、動物園・水族館で見られる生き物の周知を図った。

（2）生物保全や生物多様性をテーマにした関連情報の発信、講演会、企画展等

① 小笠原世界自然遺産登録10周年記念事業

東京都・小笠原村と連携した様々な教育普及活動を1年を通して実施した。

- （1）小笠原村制作の10周年パンフレットの配布 6月～
- （2）10周年記念日にツイート 6/24
- （3）小笠原陸産貝類の展示とリーフレットの配布
- （4）とっておきトーク動画の配信 10/10～
- （5）東京メトロ銀座駅ふるさとPRイベントでの10周年と希少種保全の紹介 10/15～10/21
- （6）文化財ウィーク期間に小笠原の天然記念物紹介と小笠原10周年をPR 10/30～11/7
- （7）小笠原の希少種保全をテーマにした保全講演会の開催 2/6

② 教育普及ふれあいシンポジウム～過去からまなび未来をつくる～

日橋 東京動物園協会参与による講演と、世界動物園水族館協会（WAZA）が発行し日本動物園水族館協会（JAZA）が日本語訳を発表した「世界動物園水族館協会動物と来園・来館者のふれあいガイドライン」を参加者が事前に精読したうえで、その実践の可能性や各園館でのふれあい活動について話し合い、今後のよりよいふれあい活動の可能性について模索する機会とした。

- ・実施日 11/22：オンラインにて開催
- ・申込数 73園館 188名以上（1端末で複数人の参加希望あり）、当日の最高アクセスは188
- ・基調講演 「それはすべて子ども動物園から始まった」 日橋一昭
- ・ブレイクアウトルームでのテーマ別ディスカッション
 - （1）動物種・個体の選定、訓練、老齢個体・不向きな個体の扱い

- (2) 動物と来園者の安全の確保
- (3) 伝えるメッセージと成果の評価
- (4) 携わるスタッフの体制、必要な知識、トレーニング
- (5) ウォークインタイプの展示での動物との近接、ふれあい体験中のエサやり

③ 東京動物園水族園教育普及研究会

4園で行われている教育普及活動について情報共有を図り、担当する園や業務の枠を超えて横断的に振り返る機会を設けることを目的に行った。オンラインで開催し、後日動物園協会内で録画を共有した。

- ・実施日時 3/11 14時～15時30分
- ・参加者数 当日の最高アクセスは58名
- ・発表演題
 - (1) 上野：オンラインでの博物館実習
 - (2) 多摩：オンラインでの「カブトムシ教室」の実施について
 - (3) 葛西：オンラインプログラムの集大成「マグロ 密着24時!!」
 - (4) 井の頭：コロナ下におけるオンライン観察会「おうちで身近ないきもの観察」の紹介
 - (5) 教育普及センター：「東京 Zoovie Maps & Tours」の制作

④ 都立動物園・水族園合同企画 身近な水辺保全講演会

身近な水辺の保全について考える講演会をオンラインで開催した。

第1回「カエル・イモリ・サンショウウオ——田んぼでくらす生き物たちの今とこれから」

- ・実施日時 3/13 13時30分～16時
- ・配信 葛西臨海水族園
- ・参加者 65名
- ・講演1「20年間取り組んできたイモリの保全活動—動物園水族園は、保全活動で何ができるのか?—」 荒井 寛（多摩動物公園 野生生物保全センター長）
- ・講演2「人と共に生きてきたカエルたち」 夏原由博 氏（名古屋大学 名誉教授）

第2回「オタマジャクシが教えてくれる、水辺のこと森のこと」

- ・実施日時 3/26 13時30分～16時
- ・配信 井の頭自然文化園
- ・参加者 59名
- ・講演1「動物園の中にある“近所の自然”『いきもの広場』で生き物を呼び寄せる」 武笠友美（井の頭自然文化園 教育普及係）
- ・講演2「オタマジャクシのいきざま」 岩井紀子 氏（東京農工大学農学部 准教授）

(3) ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム

障がいをもつ子ども達とその家族を対象とした教育普及活動であるドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウムは4園が9/11に共通して実施する予定であったが、感染拡大防止のため中止となった。上野動物園と多摩動物公園では、動画の公開や参加予定者への教材の送付などを行った。

(4)「国際生物多様性の日」等の特別な日に、4園で共通のテーマで催し物を実施した。

〇〇の日	実施日	内 容
飼育の日	4/19	「飼育係の日常」をテーマに動画を制作公開し、給餌の様子やトレーニングなどの飼育係の仕事を紹介した。
国際生物多様性の日	5/22	ズーストック種の生き物を紹介し、その生き物のために自分たちができることをツイッターで宣言した。4園に加えて、大島公園動物園からも発信した。
ふれあい動物の日	11/20	教育普及ふれあいシンポジウム～過去からまなび未来をつくる～を11/22に開催した。
世界湿地の日	2/2	湿地にすむ生き物と湿地の重要性についてのツイートを各園から発信した。2/5には井の頭自然文化園の水生物園と隣接する井の頭池からオンライン水鳥観察会をYouTubeLIVEで配信した。

(5) オンライン上の学習コンテンツの充実

特設コンテンツ「東京Zoovie」内の解説動画の充実

「世界ゾウの日」などの特別な日(〇〇の日)をきっかけとして、ズーストック種に選定されている生き物を中心に「とっておきトーク」のシリーズで紹介した。

〇〇の日	公開日	紹介種	担 当
国際マヌルネコの日	4/23	マヌルネコ	教育普及センター
世界ペンギンの日	4/25	ケープペンギン	教育普及センター
世界バクの日	4/27	マレーバク	多摩
愛鳥週間	5/13	ナベコウ	多摩
井の頭開園記念日	5/17	オシドリ	井の頭
国際生物多様性の日	5/22	ズーストック計画	上野
世界カメの日	5/23	アルダブラゾウガメ	大島公園動物園
世界カワウソの日	5/26	コツメカワウソ	多摩
かえるの日	6/6	日本産カエル類	井の頭
世界海洋デー	6/8	イシサング類	葛西
オウム・インコの日	6/15	コンゴウインコ類	多摩
世界キリンの日	6/21	キリン	多摩
世界ラクダの日	6/22	フタコブラクダ	大島公園動物園
多摩・ライオンバス再開	7/3	ライオンバスステーション	多摩
世界チンパンジーの日	7/14	チンパンジー	多摩
モルモット感謝デー	7/16	モルモット	上野・教育普及センター
世界トラの日	7/29	アムールトラ	多摩
世界ライオンの日	8/10	ライオン	多摩
世界ゾウの日	8/12	アジアゾウ	多摩

〇〇の日	公開日	紹介種	担 当
オランウータンの日	8/19	ボルネオオランウータン	多摩
野菜の日	8/31	動物園のエサ	大島公園動物園
絶滅危惧種の日	9/7	コサンケイ	上野
国際レッサーパンダの日	9/18	シセンレッサーパンダ	大島公園動物園
世界サイの日	9/22	ヒガシクロサイ	上野
世界ゴリラの日	9/23	ニシゴリラ	上野
コアラの日	9/24	コアラ	多摩
ツシマヤマネコの日	10/8	ツシマヤマネコ	井の頭
島の日	10/10	小笠原の生き物	4 園
世界オカピの日	10/18	オカピ	上野
世界ユキヒョウの日	10/23	ユキヒョウ	多摩
国際テナガザルの日	10/24	シロテテナガザル	上野
ジャイアントパンダの日	10/28	ジャイアントパンダ	上野
世界キツネザルの日	10/30	ワオキツネザル	大島公園動物園
ふれあい動物の日	11/20	リスの小径	教育普及センター
国際チーターの日	12/4	チーター	多摩
国際ホッキョクグマの日	2/27	ホッキョクグマ	教育普及センター
サイチョウの日	3/1	カンムリコサイチョウ	教育普及センター

(6) オンライン上での各種プログラムの開催

4 園のオンラインプログラムの質を向上するために、担当スタッフの園間の交流機会をつくり、技術を共有し、必要な機材を揃えた。上野動物園にはオンラインプログラムの発信基地となる「UENO ZOO STUDIO」を整備した。

2. 定例プログラム

(1) 園内プログラム

動物解説員、飼育担当者、ボランティアなどが対面で実施してきた園内での定例の教育プログラムのほとんどが開催できなかった。感染防止対策を図った方法に変更した一部のプログラムのみを、時期・回数を限定して実施した。

園 名	内 容（実施回数 対応人数）
多 摩	・動物解説員によるガイドツアー：スポット形式（41回 451名）
葛 西	・スポットガイド（889回 36,318名）
井の頭	・動物解説員によるガイドツアー：ミニガイド（55回 1,036名） ・学芸員による彫刻園ギャラリートーク（28回 209名） ・みてみてエサの時間だよ（642回 11,342名）

(2) 動物相談室の運営

上野動物園、多摩動物公園内の動物相談所において、入園者及び電話・書簡による相談に応じた。

園 名	来 園	電 話	書 簡	計
上 野	382件	2,241件	0 件	2,623件
多 摩	432件	602件	3 件	1,037件

3. 特別プログラム

自然科学への探求心、動物園や野生生物に関する知識を深めるとともに、環境保全意識の向上を図ることを目的とした体験を重視したプログラムであるが、ほとんどはオンライン形式で開催した。

(1) 実施した主な参加型プログラム

園 名	内 容（実施日）
上 野	・うへのZOOスクール「塗り絵で学ぼう『動物たちのほんとの色』」（7/31・8/1）小学1～3年生対象、オンライン ・うへのZOOスクール「自分だけの『おもしろ動物図鑑』をつくろう」（8/7, 21, 8, 22）小学4～6年生対象、オンライン ・学生向けオンライン講座（飼育部門、獣医部門）（11/6）オンライン
多 摩	・オータムスクール1～3年「みんなでめざそう！モルモット博士」（10/24）オンライン ・オータムスクール4～6年「手をみつめようー手・足からわかること」（10/31）オンライン ・中高生対象オンラインプログラム「サイエンズーカフェー動物を守っていくための“個体群管理”」（3/13）オンライン

園 名	内 容 (実施日)
葛 西	・ 6歳と家族向けプログラム 進め！海のいきものたち「くらべてみよう！アジとわたし」（7/18）オンライン ・ 小学1，2年向けプログラム いきものことはじめ「くらべて感じる 魚のくらし」（7/25）オンライン ・ 小学3，4年向けプログラム 海のあそびや「くらべてみつける 魚のヒミツ」（8/22）オンライン ・ 小学5，6年向けプログラム 集まれ！汐こたち「くらべて探る魚の工夫」（8/8）オンライン ・ 高校生・大学生向け講座「海の学び舎2021」第1回「タイムマシン生物学：化石を通して過去を見る」（9/26）オンライン
井の頭	・ おうちで身近ないきもの観察 第1回「“虫の目”で大調査！」（6/27）オンライン

（2）実施した主なクイズラリー、スタンプラリー等

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・ クイズで発見！園内セルフ観察版「ケープペンギン」（10/1～11/30）
多 摩	・ 動物のからだふしぎクイズ（7/22～9/14）
葛 西	・ 水族園のお正月 ゆくウシくるトラ セルフ観察シート「ウシとくらべて うっしー」「トラとくらべてレッツトライ!!」配布（1/2、3）

（3）実施した主な特定の日や期間に実施したプログラム

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・ パンダの日2021～ジャイアントパンダが伝えてくれること～ 何が出るかな 「今日やるパンダアクション」（10/28～11/28）
多 摩	・ オンラインプログラム「ゲンジボタルを知ろう」（6/27）オンライン
葛 西	・ 開園記念日スペシャル配信！「マグロ 密着24時!!」（10/9、10）オンライン ・ YouTube年末生配信！「かさりん放送 2021なにあった？」（12/25）オンライン
井の頭	・ 井の頭自然文化園開園79周年スペシャル「ぶんかえんライブ！」（5/16）オンライン

（4）フィールドプログラム

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・ コウモリを知ろう！探そう！オンライン講座（8/28）オンライン
多 摩	・ 動画「初心者向け 野鳥観察のすすめ」公開（3/11～）オンライン
葛 西	・ YouTube LIVE「干潟でどろどろ！？生き物さがし」（7/11）オンライン
井の頭	・ 世界湿地の日記念！「オンライン水鳥観察会」（2/5）オンライン

(5) 実施した主な講演会

園 名	内 容 (実施日)
上野	・開園140周年記念講演会「園長が語る上野動物園の『未来』 副園長とめぐる『今』の動物園」(3/20) オンライン
多摩	・干支のオンライン講演会(1/10) オンライン
葛西	・講演会「ペンギンの秘密にせまる!水族園で取り組む最新の研究」(12/11) オンライン
井の頭	・ツシマヤマネコ保全講演会「遠くにいてもできること——ツシマヤマネコを守るために」(10/24) オンライン

4. 園内での情報発信

動物展示前の常設の解説サインを更新し、印刷物や特設展等で、より詳しい情報提供を行った。

(1) ニュースレターや解説パンフレット等の発行

園 名	内 容
上野	・ジャイアントパンダの子ども名前決定記念パンフレット(公式サイトに掲載) ・ZOO TODAY(6・7月、8・9月、10・11月、12・1月合併号)
多摩	・動物新聞(No. 336～No. 344)
葛西	・SEA LIFE NEWS(第97号～第102号、100号は記念号)

(2) 実施した主な特設展、特設掲示

園 名	内 容 (実施日)
上野	・リーリー、シンシン来園10周年記念特設展示(6/22～) ・両生爬虫類館特設展示「民俗学からみる 暮らしの中の両生類・爬虫類——Folklore × Herpetology」(7/6～)
多摩	・世界ゾウの日 くらべるゾウ! パネル(8/5～31) ・干支の企画展「とらえてみよう トラの魅力」(12/16～)
葛西	・特設展「暗闇で出会う生き物たち Encounters in the dark」(3/25～)
井の頭	・彫刻館企画展「時の内部をさわる——森淳一による北村西望修復プロジェクト」(12/7～3/6) オンラインでも配信 ・干支展「ヤマネコのちいさなおへや——お正月だよ! ヤマネコ展」(1/2～30)

5. 学校教育との連携

学校教育との連携を深め、教員を対象とした実践的な研修会や児童、生徒等を対象とした学習プログラム等を準備したが、上野と葛西は令和2年度に引き続き学校団体の入園が制限され、園内での対面での学校向け教育活動が実施できていない。多摩と井の頭も感染防止対策ができる形での内容に制限されている。対策として、オンラインの学習教材や研修教材の開発、オンライン授業や出張授業、オンラインによる教員向け研修会などを充実させた。

(1) 教員を対象としたプログラム

① 授業に活かせる「動物園・水族園」講座

教員が授業を行う上で参考となる生物学的な知識やそれに関連したスキルを提供する研修講座を実施した。新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、オンラインセミナーの形式で開催した。

実施園	講座名	実施日	参加者
上 野	動物の食べ方と消化	7 月26日	15名
		8 月 3 日	15名
	季節と生物	7 月30日	12名
		8 月 5 日	17名
多 摩	どうぶつの赤ちゃん	8 月 2 日	10名
		8 月20日	10名
	昆虫の育ち方とその特徴	8 月17日	10名
		8 月19日	11名
葛 西	生き物観察が楽しくなる！魚で学ぶ生き物の見方	7 月28日	16名
		8 月 6 日	13名
井の頭	身近なムシの調べ方・よび寄せ方	7 月29日	12名
		8 月 4 日	12名
計			153名

② 授業に活かせる動画集

学校の授業中に活用できる単元に即した動画の公開をYouTubeで継続した。

対象教科	タイトル	制作園
小学校 国語	たまどうぶつこうえんのキリンの赤ちゃん	多 摩
	とりのくちばし（うえの）ひらがな	上 野
	とりのくちばし（うえの）カタカナ	上 野
	とりのくちばし（たま）	多 摩
	どうぶつのみのもりかた（うえの）ひらがな	上 野
	どうぶつのみのもりかた（うえの）カタカナ	上 野
	うみのかくれんぼ～オニダルマオコゼ～	葛 西
	うみのかくれんぼ～オクヨウジ～	葛 西
	うみのかくれんぼ～カレイのなかまプレイス～	葛 西

対象教科	タイトル	制作園
	スイミーの暮らし	葛 西
	たまどうぶつこうえんのじゅういのいちにち	多 摩
小学校～中学校 理科	きせつと生物（ニホンジカ 春～夏）	上 野
	きせつと生物（ニホンジカ 秋～冬）	上 野
	きせつと生物（ニホンザルの1年）	上 野
	動物たちの食べかた ①アジアゾウ	上 野
	動物たちの食べかた ②キリン	上 野
	動物たちの食べかた ③ホッキョクグマ	上 野
	動物たちの食べかた ④カリフォルニアアシカ	上 野
	動物たちの食べかた ⑤ジャイアントパンダ	上 野
	動物たちの食べかた ⑥ふんをくらべてみよう	上 野
	みちかな虫をさがそう	多 摩
	いろいろな虫をよびよせよう！バナナトラップ編	井の頭
	カブトムシの一生を知ろう！	多 摩

③ 生き物飼育についての先生向け研修動画とオンライン相談

生き物の飼い方をテーマにした教員向けの研修動画のYouTubeでの公開と教員の個々の質問に答えるためオンラインフォームを継続した。

タイトル	制作園
モンシロチョウの飼い方	多 摩
学校で飼育してみよう！——メダカ編	葛 西
学校で飼育してみよう！——ザリガニ編	葛 西
学校で飼育してみよう！——ヤゴ編	葛 西

④ その他の教員向け研修・セミナー

実施園	講座名（実施日 対応人数）
多 摩	・日野市教育センター「動物の体のつくり」（11/5 10名）
	・東京都小学校理科研究会「昆虫」（11/9 9名）
	・日野市教育センター「苦手な先生のための昆虫スキルアップ」（12/10 13名）

(2) 児童・生徒・学生などを対象としたプログラム(大学・専門学校含む)

園 名	内 容	件数 対応人数
上 野	団体見学指導	受け入れ休止
	団体ふれあい体験指導 (子ども動物園)	受け入れ休止 2 件 54名 (試行)
	出張授業・講師派遣	4 件 624名
	オンライン授業	48件 4,022名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	55件
	職場訪問	9 件 67名
	職場体験	0 件 0 名
多 摩	団体見学指導	12件 369名
	団体ふれあい体験指導 (モルモット教室)	受け入れ休止
	出張授業・講師派遣	8 件 690名
	オンライン授業	13件 712名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	45件
	職場訪問	3 件 12名
	職場体験	0 件 0 名
葛 西	団体見学指導	受け入れ休止 1 件 15名 (西なぎさ)
	出張授業・講師派遣	6 件 476 名
	オンライン授業	18 件 1,161 名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	13 件
	職場訪問	4 件 11 名
	職場体験	5 件 14 名
井の頭	団体見学指導	11件 488名
	団体ふれあい体験指導 (モルモットふれあいコーナー)	受け入れ休止
	出張授業・講師派遣	8 件 507名
	オンライン授業	16件 1,066名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	38件
	職場訪問	2 件 4 名
	職場体験	2 件 4 名

(3) 教材の貸出・提供、教育プログラムの開発

① 学校団体向け教材の配布と提供

事前学習や当日の見学時に活用するための教材の開発と提供を行った。また、生き物を見るポイントや園の見どころ、プログラム・教材を紹介した教育活用ガイドブックなどの参考資料を引率者に配布した。一部は感染拡大防止のために配布・貸出を休止した。

園 名	内 容	件数・対応人数
上 野	団体向け教材貸出	貸出休止

園 名	内 容	件数・対応人数
	・わくわく観察バッグ、クイズdeスタンプなど	4件 502名（試行）
	配布資料 ・観察ガイドブックレット	オンラインで公開
多 摩	団体向け教材貸出 ・紙芝居セット、動物ふしぎ発見ポケットなど	43件 3,744名
	配布資料 ・セルフガイドブックレット、動物クイズなど	
葛 西	配布資料 ・水族園魚タッチングシート（ダウンロード教材）	配布休止
井の頭	配布資料 ・ワークシート用資料集	実地踏査時に配布

② 中高生向けの冊子の作成と配布、「動物園・水族園レポートチャレンジ」の募集

令和3年3月にオンライン公開した「中学生・高校生のために動物園・水族園活用ガイド」を6月に5,500部を印刷した。都内全中学校・高等学校にサンプルを送付し、引き続き、東京ゾーンネットからダウンロードできるようにした。

冊子内と東京ゾーンネットで告知した、動物園・水族園での観察の成果をレポートにまとめる「動物園・水族園レポートチャレンジ」には、12月までに、中学生5組、高校生3組からの応募があり、最優秀作品賞を1組（中学生）に、奨励賞を3組（中学生1組、高校生2組）に贈った。

（4）大学教育の実践

連携協定を締結した大学等、大学・専門学校の学生に向けた講義、実習プログラム等を実施した。

① 実習

内 容	上野	多摩	葛西	井の頭	計
飼育実習	—	—	—	1名	1名
獣医臨床実習	—	—	—	—	—
博物館実習	31名	9名	12名	10名	59名
特別実習（研究・卒論）	—	8名	—	—	16名
インターンシップ（都立大）	—	—	—	—	—

② 講義・見学指導（オンラインを含む）

園 名	内 容（実施日 対応人数）
多 摩	・日本獣医生命科学大学「新入生に向けたアドバイス」（5/16 45名）出張授業 ・帝京科学大学「アドバンスト実習」（5/18 37名、5/19 36名）オンライン ・ヤマザキ動物看護大学「動物園の話」（6/7 250名）オンライン ・帝京科学大学「野生動物と展示動物の福祉」（7/9 45名）オンライン ・帝京科学大学「動物福祉実習」（12/10 20名）オンライン ・帝京大学初等教育学科「小学校教職課程（理科）の実習」（12/18 16名） ・東京農工大学・共同獣医学科「獣医倫理」（1/11 39名）オンライン

園 名	内 容（実施日 対応人数）
葛 西	・東京コミュニケーションアート専門学校「海鳥の保全と教育普及活動について」（1/22 104名、1/31 104名）出張授業 ・東海大学札幌キャンパス「海鳥の飼育と保全」（9/25 180名）オンライン
井の頭	・明治大学「博物館学講座」（6/20） ・東北芸術工科大学「社会教育実践自習1」（10/5 8名）オンライン ・武蔵野美術大学鷹「ミューゼオロジー実習」（11/4 53名）出張授業 ・学習院大学教職課程「インタビュー」（11/7 1名） ・東京造形大学「博物館資料論」（11/24 60名）オンライン ・東京農業大学「動植物園論」（12/9 60名）出張授業 ・日本獣医生命科学大学学生相談室「ワークショップ」（2/1 7名）オンライン

（５）一般財団法人東京学校支援機構（TEPRO（ティープロ））を介した学校支援

学校が求める支援とそれを提供できる人材をつなぐ制度「ティープロ サポーター バンク」へ団体として登録し、出張授業やオンライン授業の依頼を受ける窓口とした。令和３年度の実施例はなかった。

６．アウトリーチ

他団体が開催する催し物等で、園外に飼育生物や資料を持参して解説を行ったり、観察会を実施したりする教育プログラム。一部のプログラムはオンラインにより実施した。

園 名	内 容（実施日 対応人数）
上 野	・国立国会図書館国際子ども図書館「キリンの飼育員さんのお話し」（11/14 53名） ・文化庁 ミュージアムエデュケーション研修「動物園での教育について」（9/17 23名）
葛西	・円山動物園「海鳥講演会」（12/28 80名）オンライン ・外務省 Japan Climate Challenge Day 2022 ～生き物たちの未来と、すぐそこにある気候変動～（3/19）オンライン
井の頭	・武蔵野プレイス 武蔵野まち講座「のぞいてみよう！動物園のお仕事 みんなの井の頭自然文化園」（11/6 27名） ・京エコロジーセンター「動物園での生物多様性保全の最前線」（11/27）オンライン ・三鷹ネットワーク大学 干支にまつわるエトセトラ「動物園で“とらやま”を守る—希少な野生動物の 保全活動」（12/3）オンライン ・調布市東部公民館「彫刻の楽しみ方 北村西望と井の頭自然文化園」（3/10 18名 出張、3/15 15名 オンライン）

7. 移動水族館

葛西臨海水族園では、普段、水族園に足を運ぶことができない人にも、海の生物に親しむ機会を提供し、海と海洋生物への興味、理解を深めてもらうため、移動水族館専用車を活用し、水族園外においても普及啓発活動を実施した。感染拡大防止のため、予定していた活動のいくつかは中止になった。

実施回数	延べ参加者数
21回	1,373名

8. 友の会運営

動物園・水族園への関心を高めるとともに、広く自然科学への興味を育ててもらうために組織している「東京動物園友の会」の運営を行った。

名 称	東京動物園友の会
会 員 数	一般：3,816名 ジュニア：226名（令和4年3月31日現在）
実 施 事 項	① 新規入会、継続手続等、受付・管理事務 ② 季刊雑誌「どうぶつと動物園」及びジュニア向け会誌「ZOO! どうぶつえんしんぶん」の送付 ③ 各種普及活動案内送付（ダイレクトメール） ④ 新規入会案内パンフレットの配布

（1）友の会会員対象催物

感染拡大防止のため、動物園・水族園の園内特別見学会や観察会、また、関連施設見学ツアーやフィールド観察会等、人を集める催物については開催を見送り、オンラインでの教育普及事業を実施した。

行 事 名	実施月日	内容・講師等	参加者
オンラインプログラム 「ゲンジボタルを知ろう」	6月27日	ゲンジボタルの生態等についてオンラインで解説。 企画：多摩動物公園	一般含 160組
オンライン講座「コウモリを知ろう！探そう！」	8月28日	コウモリの生態等についてオンラインで解説。 企画：上野動物園	一般含 68組
千支の動物講演会（オンライン開催）	1月9日	4園の最近の話題 講演「野生アムールトラの生息地の今と日本のつながり」：佐々木勝教（国際環境NGO FoE Japan） 講演「多摩動物公園におけるアムールトラの飼育」：川上壮太郎（飼育展示課南園飼育展示係） 企画：多摩動物公園	一般含 259組

行 事 名	実施月日	内容・講師等	参加者
「初心者向け 野鳥観察のすすめ」動画公開	3月11日	初心者向けの野鳥観察動画を制作し、YouTube動画として配信した。	

(2) ジュニア会員対象催物

感染拡大防止のため、動物園・水族園園内での人を集める催物は、開催を見送り、オンラインでの教育普及事業を実施した。

開催園	実施月日	内容	参加者
上野動物園	8月28日	ジュニアのためのオンライン講座「コウモリを知ろう！探そう！」	16組
葛西臨海水族園	1月16日 1月23日	オンラインプログラム「くらべて発見！魚のヒミツ」	各日6組 計12組

(3) 「友の会の日」の実施

「友の会の日」は、感染拡大防止のため、園内での開催を見送り、オンラインでの教育普及事業を実施した。

行 事 名	実施月日	内容・講師等	参加者
友の会の日	10月3日	・4園園長のお話 ・多摩動物公園飼育展示課職員のお話 ①ライオン ②アジアゾウ ・アジアゾウ舎からのライブ配信	305組

9. 資料の収集・公開

動物及び動物園・水族館関係の専門書や学術雑誌、普及雑誌を中心に収集した。定期刊行物は、購入や寄贈のほか、動物園、博物館、研究所等の出版物との交換により収集した。

感染拡大防止のため図書コーナーは休室し、代替措置として資料の複写郵送サービスを実施した。

写真・ビデオ等の映像資料のほか、動物の音声資料（録音データ）も園内外の利用に供した。収蔵図書については、ウェブサイト上に図書検索システムを設けている。

(1) 図書収集状況

区 分	収集 点数	国 内			国 外			摘 要
		購入	寄贈	交換	購入	寄贈	交換	
書 籍 類	129	90	30	0	6	3	0	収蔵数 和書 13,920冊 洋書 4,243冊
雑 誌 類	419	187	83	70	71	4	4	

(2) 図書利用一覧

区分	動物園	哺乳類	鳥 類	爬虫類	魚 類	無脊椎	一 般	その他	計
件数	6	0	2	1	0	0	0	1	10件

(都立動物園水族園関係者は除く)

(3) 映像資料利用状況

区 分	無 料		有 料		合 計	
写 真	36件	168点	109件	447点	145件	615点
ビデオ映像	2件	5点	51件	156点	53件	161点
音 声 資 料	0件	0点	3件	3点	3件	3点
計	38件	173点	163件	606点	201件	779点

(都立動物園水族園関係者は除く)

10. 出版事業

(1) 「東京動物園友の会」会員向け機関誌の発行

動物及び動物園に関する情報を提供するための出版物を発行し、「東京動物園友の会」会員その他関係機関等に配付した。

刊 行 物	内 容
どうぶつと動物園	A4変型判・約54頁／約5,000部／春・夏・秋・冬号 (Vol.73-2～74-1) ・春号は多摩動物公園のクロツラヘラサギやチョウの飼育レポート、葛西臨海水族園のオウサマペンギンの繁殖のあゆみ等を掲載した。 ・夏号は上野動物園のアジアゾウの飼育レポート、葛西臨海水族園と東京大学大気海洋研究所による海鳥の共同研究の記事等を掲載した。 ・秋号は多摩動物公園のインドサイと上野動物園のヒガシクロサイの飼育レポートや、ジャイアントパンダの双子誕生記事等を掲載した。 ・冬号は上野動物園開園140周年特集として、イボイモリ、ミナミコアリクイ、ニホンザルの飼育レポート等を掲載した。 ・その他、研究や保全活動の最新知見として、沖縄にすむ絶滅危惧種ノグチゲラや小笠原の希少な鳥オガサワラカワラヒワ、大規模森林火災によって被害を受けたオーストラリアの野生動物、「アホウドリ」と「センカクアホウドリ」の違いについての記事等を掲載した。
ZOO! どうぶつえん しんぶん	A4判・8頁／約600部／8月・2月発行 ・第26号(8月発行)は「アカハライモリ」を特集した。その一生や体の特徴、さらには都立動物園・水族園が取り組む保全活動についても写真を使ってわかりやすく解説した。

	・第27号（2月発行）は「オオカミ」を特集した。体の特徴をはじめ、群れでのくらしやコミュニケーション、イヌとの関係等について、写真を多く使って紹介した。
--	--

（2）葛西臨海水族園情報誌の発行

刊 行 物	内 容
SEA LIFE NEWS	A4判・4頁／約19,000部／第97号～第102号（6回）発行 ・葛西臨海水族園の展示生物についての情報や保全活動・調査活動等に関する情報を取り上げ、園内で配布するとともに東京ズーネットサイトで公開した。
	第97号 サンゴを輝かせる光、他
	第98号 「東京湾アマモ場」水槽の1年、他
	第99号 動物のようには見えない、だけど刺胞動物、他
	第100号 山あり谷あり！？通巻100号までの道のり、他
	第101号 ニホンコウノトリが逃げた！？、他
	第102号 伸ばして食べるマトウダイ、他

（3）高碕賞の表彰

季刊「どうぶつと動物園」に年間（春号～冬号）に掲載された記事及び写真を対象に、優れた作品を選出し表彰した（感染拡大防止のため表彰式は開催せず、高碕賞受賞者による講演動画をオンライン配信した）。

区分	タイトル	掲載号	氏 名	摘 要
高碕賞	クロツラヘラサギの繁殖——種の特性に合わせた工夫	春号	石井 淳子	多摩動物公園
奨励賞	井の頭自然文化園のツシマヤマネコ	春号	西川加代子	
	多摩動物公園のゴールデンターキン	夏号	松山 直美	
	上野動物園のキリン	冬号	小山由美子	

11. インターネット事業

都立動物園・水族園公式サイト「東京ズーネット」、上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA.JP」、Twitter（6アカウント）、YouTube、Instagramを通じて、動物園・水族園の基本情報及び動物に関する情報を広く提供・配信した。

（1）ウェブサイト「東京ズーネット」の運営（<https://www.tokyo-zoo.net/>）

都立動物園・水族園の公式サイトとして、基本情報としての利用案内をはじめ、動物に関する最新情報や各園イベント情報、動物に関する基礎知識、各園の見どころや動物の紹介、保全への取り組みなど、さまざまな情報を提供した。また、各園の動物展示の見どころ等を解説付きで紹介する「都立動物園・水族園 見どころデジタルマップ」を新規公開した。

【年間アナリティクス数値】

年度	令和2年度	令和3年度
ページビュー数	34,896,151	51,261,395
ユニークユーザー数	8,534,345	15,137,240

【主なコンテンツ】

ページ名	内 容 等
ニュース&イベント	都立動物園で飼育している動物に関する最新情報と各園イベント情報
各種利用案内	開園時間、休園日、入園料、団体入園、乳幼児・障害者対応、園内利用施設、交通アクセス、園内マップ
見どころと歴史	各園の特徴と見どころ及び歴史を紹介
保全への取組	野生生物や生物多様性の保全、研究、環境教育に関する取り組みを紹介
どうぶつ図鑑	飼育動物に関する生態等の解説
東京ズーネットBB	動物の様々な行動の動画配信（令和4年3月31日現在計1,088点）
鳴き声図鑑	動物の鳴き声の音声配信
東京動物園友の会	友の会に関する案内や発行雑誌の紹介
蔵書検索	上野動物園資料室に収蔵されている動物関連図書の検索システム
どうぶつえんデジタルライブラリー	都立動物園・水族園に関する書籍や雑誌を電子書籍として公開
動物園サポーター	動物園サポーターの紹介、登録方法、登録者リスト、会計報告
学校向けプログラム	教育機関のための各種プログラムの紹介

ページ名	内 容 等
東京Zoovie: Maps & Tours	グラフィカルなマップを入口として4園のバーチャルツアー映像や動画によって園内の見どころを案内するとともに、日本や世界の生き物について学べる教育普及情報を配置したコンテンツ
都立動物園・水族園 見どころデジタル マップ	各園の動物展示の見どころ、写真に撮りたくなるような景色、おすすめのギフト商品、少しマニアックなスポット等を解説付きで紹介する新コンテンツ（令和3年10月5日公開）
ガイドアプリ	上野動物園と葛西臨海水族園をガイドする都立公園ガイドアプリ「Tokyo Parks Navi」の紹介
かんさつシート	多摩動物公園の「かんさつシート」の紹介
水族園魚タッチング シート	葛西臨海水族園で楽しく生物観察をするためのワークシートの紹介
移動水族館	葛西臨海水族園の「移動水族館」事業の紹介と申込案内
いきもの広場	井の頭自然文化園園内の「いきもの広場」の紹介、毎週の活動の紹介
モルモット ふれあいコーナー	井の頭自然文化園モルモットふれあいコーナー事前学習ムービーによる紹介
花ごよみ	井の頭自然文化園の四季おりおりの植物を紹介

（２）ウェブサイト「UENO-PANDA.JP」の運営（<https://www.ueno-panda.jp/>）

上野動物園のジャイアントパンダ情報サイトとして、展示個体ならびに過去に飼育した個体の情報、飼育係によるレポート、ジャイアントパンダに関する最新情報やQ&A等を紹介。また、保全への取り組みやジャイアントパンダ保護サポート基金の紹介、さらには壁紙ダウンロードコーナーや企業協賛の募集等のコンテンツ等、豊富な情報を掲載した。

【年間アナリティクス数値】

年度	令和2年度	令和3年度
ページビュー数	3,798,429	8,790,007
ユニークユーザー数	721,434	1,819,839

【主なコンテンツ】

ページ名	内 容 等
トピックス	上野動物園のジャイアントパンダに関する最新情報
パンダプロフィール	上野動物園で展示している3頭の個体紹介

ジャイアントパンダについて	様々な角度からジャイアントパンダを紹介
パンダムービー	動画によるジャイアントパンダ紹介
歴代のパンダたち	これまで上野動物園で飼育した個体を動画とともに紹介
パンダ舎の紹介	ジャイアントパンダ舎を写真付きで紹介
パンダ大百科	ジャイアントパンダに関するQ&A
保全への取り組み	ジャイアントパンダ保護研究に関する概要
熊猫的新聞（パンダニュース）	飼育係による写真付きのレポート
壁紙ダウンロード	パソコン用にダウンロードできる壁紙を提供
ジャイアントパンダ保護サポート基金	基金の概要、企業協賛の募集

（３）Twitter による情報発信

SNS媒体「Twitter」を活用し、４園と東京ズーネット及び教育普及センターの６アカウントから、積極的に情報を提供した。

アカウント		フォロワー数	
		令和３年３月末	令和４年３月末
上野動物園	@UenoZooGardens	1,032,340	1,067,358
多摩動物公園	@TamaZooPark	236,247	251,397
葛西臨海水族園	@KasaiSuizokuen	178,073	186,320
井の頭自然文化園	@InokashiraPark	137,290	146,317
東京ズーネット	@TokyoZooNet_PR	431,559	448,157
東京動物園協会教育普及センター	@TZPS_EduCenter	9,522	11,206

（４）YouTubeによる情報発信

動画配信サービス「YouTube」を活用し、「東京ズーネット公式チャンネル」「葛西臨海水族園公式チャンネル」「東京ZoovieYouTubeチャンネル」で動画配信を積極的に行った。

（５）Instagramによる情報発信

都立動物園・水族園の公式 Instagram アカウント (@tokyo_zoogram) を活用し、写真や動画を中心とした積極的な情報発信を行った。フォロワー数 16,076（令和４年３月 31 日現在 ※令和２年 7 月 20 日開設）。

令和４年３月 20 日に上野動物園が開園 140 周年を迎えるにあたり、期間限定 Instagram アカウント (ueno_zoo_140th) を開設（令和４年３月 9 日～５年３月 19 日までを予定）し、140 周年事業に関わる情報発信を開始した。フォロワー数 2,687（令和４年３月 31 日現在）

(6) メールマガジンによる情報発信

プッシュ型メディアであるメールマガジンを活用し、「ズー・エクスプレス」を隔週で計25号(No. 818～842)を配信した。登録数 2,400 (令和4年3月31日現在)。

12. 映像記録資料制作

(1) 動物写真撮影

都立動物園・水族園を中心に、飼育動物全般に関する記録及び園内外の行事や催物を撮影・記録した。

(2) ビデオ撮影・制作

飼育動物の行動記録や動物園情報をビデオ映像として撮影記録し、入園者向けニュースや各種研究発表として上映・提供するほか、ウェブサイト「東京ズーネット」「UENO-PANDA.JP」において配信した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ交尾記録	59秒	上野	資料として提供
アジアゾウ来園から現在まで	11分47秒	多摩	イベント放映用
ジャイアントパンダ シャンシャンの近況	10分	上野	イベント放映用
ジャイアントパンダの近況	9分33秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダの成長	6分42秒	上野	GP運営委員会用
さるやまキッチンサイネージ映像編集版	12分45秒	上野	イベント放映用
ツシマヤマネコ 採精、人工受精	4時間35分3秒	井の頭	資料として提供
ジャイアントパンダ双子の成長	2分18秒	上野	資料として提供
アジアゾウ ヴィドゥラ引越し	38分22秒	多摩	資料として提供
アジアゾウ アルンの成長	9分59秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダ 双子の成長	2分27秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダ 双子の近況	2分5秒	上野	イベント放映用
ジャイアントパンダ 交尾から双子の成長	3分1秒	上野	イベント放映用 イベント中止
ジャイアントパンダ 交尾から誕生、一般公開まで	4分57秒	上野	GP運営委員会用 会議延期
メンタルヘルス講師 講義映像編集版	20分33秒	上野	イベント放映用
ホッキョクグマ水中映像	46秒	上野	イベント放映用

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ 双子の成長	9分54秒	上野	イベント放映用
ジャイアントパンダ 双子の近況	4分55秒	上野	イベント放映用
アジアゾウ アルンの成長	1分20秒	上野	ズーネットニュース配信用
アジアゾウ アルン 1歳誕生日	54秒	上野	ズーネットニュース配信用
タスマニアデビル	2分6秒	多摩	ズーネットBB配信用
チーター親子	2分27秒	多摩	ズーネットBB配信用
エゾヒグマ	1分17秒	上野	ズーネットBB配信用
インドサイ	2分13秒	多摩	ズーネットBB配信用
アジアゾウ アルンの成長	2分45秒	上野	ズーネットBB配信用
クロキツネザル親子	1分46秒	上野	ズーネットBB配信用
オジサン	1分23秒	葛西	ズーネットBB配信用
フグ目の仲間	2分15秒	葛西	ズーネットBB配信用
ミーアキャット	1分49秒	井の頭	ズーネットBB配信用
上野動物園 再開園	58秒	上野	ズーネットBB配信用
新アジアゾウ舎	1分33秒	多摩	ズーネットBB配信用
アジアゾウ アルンの成長（その2）	1分35秒	上野	ズーネットBB配信用
ジャイアントパンダ シャンシャン4歳	1分22秒	上野	ズーネットBB配信用
アジアゾウ アルンの成長（その3）	1分41秒	上野	ズーネットBB配信用
ライオンバスステーション リニューアル オープン	1分59秒	多摩	ズーネットBB配信用
アジアゾウ トレーニング	3分46秒	多摩	ズーネットBB配信用
ケープハイラックス	1分12秒	上野	ズーネットBB配信用
デグー	1分58秒	上野	ズーネットBB配信用
ハダカデバネズミ	1分17秒	上野	ズーネットBB配信用
モモイロペリカン	2分21秒	多摩	ズーネットBB配信用
新ライオン園	1分42秒	多摩	ズーネットBB配信用
スイギュウ	2分3秒	多摩	ズーネットBB配信用
日本在来馬 北海道和種	1分27秒	多摩	ズーネットBB配信用
マヌルネコ	1分32秒	葛西	ズーネットBB配信用

内 容	時間	園名	主な使用目的
アジアゾウ ヴィドゥラの移動	3分9秒	多摩	ズーネットBB配信用
カリガネ	1分13秒	多摩	ズーネットBB配信用
ソデグロヅル	1分24秒	多摩	ズーネットBB配信用
モウコノウマ	1分43秒	多摩	ズーネットBB配信用
アジアゾウ アルン1歳	1分38秒	上野	ズーネットBB配信用
クロエリセイタカシギ	1 分32秒	上野	ズーネットBB配信用
コビトカバ モミジ	1分24秒	上野	ズーネットBB配信用
ワオキツネザル	1分41秒	上野	ズーネットBB配信用
ニホンアナグマ	1分34秒	井の頭	ズーネットBB配信用
アムールトラ イチ	1分56秒	多摩	ズーネットBB配信用
オオカンガルーの子	2分180秒	上野	ズーネットBB配信用
シロテテナガザル	1分19秒	多摩	ズーネットBB配信用
タンチョウ	1分44秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ニホンリス	1分	井の頭	ズーネットBB配信用
ボウズハゼ	1分14秒	多摩	ズーネットBB配信用
オランウータン ボルネオ	2分9秒	多摩	ズーネットBB配信用
キンケイ	2分4秒	上野	ズーネットBB配信用
ニホンザル	1分36秒	上野	ズーネットBB配信用
コアラの子	3分14秒	多摩	ズーネットBB配信用
キリンの子	1分45秒	多摩	ズーネットBB配信用
ニシゴリラ	2分3秒	上野	ズーネットBB配信用
スマトラトラ ブラン	2分23秒	上野	ズーネットBB配信用
ニホンカモシカ ナギ	2分3秒	上野	ズーネットBB配信用
コモンマーモセットの子	2分20秒	上野	ズーネットBB配信用

(3) 広報用資料の制作

動物園・水族園の広報発表時の写真資料に加え、ビデオ映像を撮影・制作し、提供した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ (4月12日)	3分25秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (4月26日)	3分25秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (5月10日)	3分10秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (5月24日)	3分25秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (6月3日)	59秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (6月7日)	1分5秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (6月21日)	2分42秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (6月23日)	2分8秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (6月25日)	53秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (6月28日)	1分12秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (7月2日)	1分25秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (7月6日)	1分18秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (7月9日)	1分9秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (7月13日)	3分43秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (7月15日)	1分7秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (7月19日)	1分48秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (7月22日)	1分42秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (7月27日)	3分39秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (8月3日)	3分21秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (8月6日)	28秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (8月11日)	4分6秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (8月17日)	2分10秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (8月24日)	4分35秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (8月30日)	2分40秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (9月6日)	2分38秒	上野	報道発表資料

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ（9月13日）	5分23秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（9月20日）	3分28秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（9月27日）	5分3秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（10月5日）	4分49秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（10月8日）	20秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（10月11日）	3分49秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（10月19日）	5分3秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（10月26日）	3分30秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（11月1日）	2分49秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（11月8日）	5分21秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（11月15日）	2分16秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（11月23日）	2分18秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（11月29日）	4分33秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（12月6日）	25秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（12月7日）	5分23秒	上野	報道発表資料
ニシゴリラ モモコ妊娠（12月8日）	30秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（12月14日）	2分57秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（12月20日）	5分5秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（12月27日）	2分53秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（1月4日）	2分43秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（1月10日）	2分52秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（1月12日）	2分43秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（1月18日）	5分9秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（1月24日）	2分43秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（1月31日）	5分25秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（2月8日）	2分38秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（2月15日）	5分1秒	上野	報道発表資料

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ（2月22日）	2分44秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（3月1日）	5分26秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（3月8日）	3分2秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（3月15日）	5分18秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（3月23日）	3分55秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（3月25日）	59秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（3月29日）	2分54秒	上野	報道発表資料

〔４〕市民・団体との協働事業

１．ボランティアとの協働

園内で展示動物の解説等や入園者案内等のボランティア活動を行う「東京動物園ボランティアーズ（TZV）」（活動場所：上野動物園、多摩動物公園、井の頭自然文化園、登録者数707名）と「東京シーライフボランティアーズ（TSV）」（活動場所：葛西臨海水族園、登録者数126名）は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年間を通じて入園者に対面する活動は休止とした。開園期間中は感染防止対策を取りながら可能な範囲で管理作業等にあたってもらうとともに、オンライン研修の開催など、各団体の運営を支援した。通常の活動が停止しているため、新規会員の募集は見送った。

「恩賜上野動物園樹木美化ボランティア」は園内での活動をすべて見送ったが、「NPO法人樹木・環境ネットワーク」は限られた時期ではあったが多摩動物公園で樹木や花壇等の管理活動を行った。

（１）ボランティア会員を対象とした研修会

園 名		内 容	参加者数
TZV TSV	上野 多摩 井の頭 葛西	オンライン講座「動物の情報の調べ方：ペンギンの場合」、「動物相談の仕事と飼育員の仕事」、「それはすべて子ども動物園から始まった」、「動物園の役割と活動」、「動物園人・日橋さんにインタビュー」	YouTube 動画配信 (限定公開)
TSV	葛 西	Zoom研修（共生の話、タコの話、クロマグロの繁殖、水辺探訪、調査係の仕事、東京湾の小さな生き物、等）	107名

（２）ボランティアとの協働による教育活動等

感染拡大防止のため、各園入園者に対する対面での教育普及活動は行わなかった。

2. サポーター事業

個人及び団体、法人等から資金的支援を得て、都立動物園における動物飼育環境の改善に資するとともに、「動物園サポーター」として登録し、市民の動物園事業への理解と参画意識を促進した。

(1) 動物園サポーターの登録状況

園 名	個人 (大人) 1口：10,000円	個人 (大学生以下) 1口：5,000円	子供 サポーター 1口：500円	法人 (団体) 1口：50,000円	金額
上 野	427名 557口	6名 7口	10名 18口	9法人 10口	6,114,000円
多 摩	169名 266口	7名 10口	13名 13口	2法人 4口	2,916,500円
葛 西	20名 21口	0名 0口	1名 1口	3法人 3口	360,500円
井の頭	59名 71口	2名 2口	4名 4口	2法人 8口	1,122,000円
合 計	675名 915口	15名 19口	28名 36口	16法人 25口	10,513,000円

(2) サポーターを対象とした園内見学等の催物（サポーターズデイ）等の実施

開催園	実施月日	内 容	参加者
井の頭	12月19日	近況と収支報告、園長の動物園ガイド	33名
上 野	1月30日	動物舎で飼育係の解説付見学会（中止）	—
多 摩	2月26日	動物舎で飼育係の解説付見学会（中止）	—
葛 西	2月27日	収支報告、園内ガイドツアー（中止）	—

(3) サポーター資金による飼育展示等の改善

園 名	実 施 事 項
上 野 動 物 園	①アイアイ給餌エンリッチメント用具導入 ②アザラシ舎床塗装補修 ③アジアゾウ舎給餌器導入 ④アメリカバイソン真砂土導入 ⑤ウシ寝小屋空調機修繕 ⑥ウマふたば牧場用砂導入 ⑦エゾヒグマバークチップ敷設 ⑧カラスバト他珪砂導入 ⑨キリン川砂敷設 ⑩クマ給餌エンリッチメント用具導入 ⑪クマ動物舎緑化 ⑫クマ・サル檜丸太導入

	⑬クロシロエリマキキツネザル丸太導入 ⑭コガタワニ展示水槽研磨 ⑮ゴリラ・トラ丸太導入 ⑯ゴリラ・トラ・テナガザルエンリッチメント用具導入 ⑰チュウゴクワニトカゲ他水槽研磨 ⑱日本の鳥放飼場珪砂導入 ⑲ハダカデバネズミ飼育用具導入 ⑳ヒガシクロサイ舎川砂敷設 ㉑ペンギン水流装置資材導入 ㉒マレーグマ動物舎緑化
多摩動物公園	①アジアゾウ舎杉皮導入 ②アジアゾウエンリッチメント用具導入 ③アフリカゾウ山砂敷設 ④アフリカゾウ給餌エンリッチメント用具導入 ⑤オランウータン給餌エンリッチメント用具導入 ⑥オランウータンラジオ導入 ⑦オランウータン遊具導入 ⑧コアラ敷材導入 ⑨スイギュウエンリッチメント用具導入 ⑩チンパンジー暖房機器導入 ⑪チンパンジー枝付き木の葉導入 ⑫ハクビシンパネルヒーター設置 ⑬ハクビシンデジタルはかり導入 ⑭パラワンコクジャクコルツヒーター導入 ⑮マレーバク飼い葉桶導入 ⑯モルモット床暖房導入 ⑰ユキヒョウ遊具導入
葛西臨海水族園	極地展示水槽用擬海氷設置
井の頭自然文化園	①アカガシラカラスバト用マテバシイ導入 ②アカゲザルエンリッチメント用具導入 ③イノシシ舎放飼場水飲み場設置 ④シカ川砂敷設 ⑤資料館げっ歯類除湿器導入 ⑥ブタ・ヤギ・ヒツジ体重計導入 ⑦ブタ防寒ジャケット導入 ⑧ヤギ保温マット導入

3. 関係団体への協力

(1) 国際自然保護連合への協力

国際自然保護連合（International Union for Conservation of Nature and Natural Resources 略称 IUCN）の委員会である種保存委員会（Species Survival Commission 略称SSC）の保全計画専門家グループ（Conservation Planning Specialist Group 略称CPSG）へ、事業援助のため寄付を行った。

(2) 関係団体への協力

動物園事業に関係する20の団体に加入し、情報の交換や募金活動への協力を行った。

[加入団体]

会員区分	団 体 名	会員区分	団 体 名
法 人 会 員	(公財)世界自然保護基金ジャパン	団 体 会 員	(公財)日本自然保護協会
〃	(公財)日本鳥類保護連盟	〃	(一社)日本霊長類学会
賛 助 会 員	(公財)山階鳥類研究所	〃	(一社)日本応用動物昆虫学会
〃	(一社)日本生態学会	〃	(一社)日本環境教育学会
〃	日本動物心理学会	〃	(一社)日本昆虫学会
〃	(公社)日本造園学会	〃	日本鱗翅学会
維 持 会 員	(公社)日本動物園水族館協会	〃	日本鳥学会
〃	(公財)日本博物館協会	〃	日本爬虫両棲類学会
団 体 会 員	(一社)日本哺乳類学会	〃	(一社)日本生物教育学会
〃	(公財)日本動物学会	〃	日本動物園水族館教育研究会

4. 基金事業

(1) ジャイアントパンダ保護サポート基金の運営

募金やドネーション商品からの寄付、企業からの協賛金等を積み立て、ジャイアントパンダ保護に向けた普及啓発活動や上野動物園での飼育環境の向上、東京都と中国が共同で進めている繁殖研究プロジェクトへの支援に活用した。

① 収入の状況

項 目	金 額	内 容
寄付金	12,770,356円	①園内外募金箱への募金 ②SAVE the PANDAパートナーズ ほか
企業協賛金	5,535,065円	①園内広告協賛 ②キャラクターライセンス、ロゴマーク使用 ほか
ドネーション商品 売上金からの寄付金	6,199,311円	オリジナルドネーション商品売上金額の5% （「ありがとうシャンシャン」CD/DVDは80%） アイテム数：62点（ぬいぐるみ、お菓子ほか） 売上点数：70,396点

② 基金活用の状況

使 途	活用内容	活用金額
ジャイアントパンダの保護に向けた普及啓発活動	リーリー・シンシン来園10周年企画（東園旧食堂跡地にフォトスポットを設置）、普及啓発ボードの設置、臨時休園中の情報発信強化、シャンシャン4歳企画、パンダの日企画	4,027,777円
上野動物園におけるジャイアントパンダの飼育環境の向上	パンダのもりにおける飼育環境の充実（保育器監視モニター、体温計、血中酸素濃度測定器）	525,140円
東京都と中国野生動物保護協会が共同で進める国際的なパンダ保護活動	東京都と中国の共同繁殖プロジェクト支援（東京都へ寄付）	10,000,000円

③ 基金残高

基金残高	146,579,587円（令和4年3月31日現在）
------	---------------------------

④ ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会の開催

基金を適正に管理し事業に活用するため、ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会を開催した。

〔委員・顧問〕（令和４年３月31日現在）

役 職	氏 名	職 名
委 員 長	菅 谷 博	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館名誉館長
副 委 員 長	今 村 保 雄	公益財団法人東京動物園協会理事長
委 員	湯 川 れい子	音楽評論家・作詞家
委 員	二 木 忠 男	上野観光連盟会長
委 員	須 藤 栄	東京都建設局次長
顧 問	黒 柳 徹 子	女優・ユニセフ親善大使

〔運営委員会〕

回	開催月日	議 題
第 1 回	7 月 1 2 日	(1) 令和２年度決算報告について (2) 現在の飼育状況について (3) 令和３年度基金進捗状況について
第 2 回	2 月 1 8 日	(1) 令和３年度基金進捗状況について (2) 令和４年度基金事業・予算（案）について

（２）東京動物園協会野生生物保全基金の運営

野生生物の保全に積極的に取り組む個人・団体の支援を目的として、助成対象活動を公募し、審査のうえ、助成金交付を行った。

令和４年度の助成対象活動募集にあたっては、「一般部門」に加え、野生生物保全への理解促進につながる研究に情熱を燃やし、独創的な研究を進める中高生研究者に対し、より深く学び考えるきっかけとなることを目的に助成を行う「中高校生部門」を新設して、広く応募を募った。

基金PR活動としてポスターとチラシを作成して全国の大学・博物館・研究施設・NPO及び理科教育に関心の高い高等学校等に送付して本助成制度を広くアピールを図った。また、新たな寄付方法としてみずほ銀行が提供するスマートフォン決済サービス「J-Coin Pay」を導入し、クレジットカード決済によるオンライン寄付システムの運用と併せて、幅広く寄付を募った。

① 助成交付実績

〔令和３年度〕

＊令和３年２月１日～２月28日公募。令和２年度内に助成対象を決定し、令和３年度に助成金を交付。

＊新型コロナウイルス感染症の影響により活動に支障の出た助成対象者に、最長で令和５年３月31日までの活動期間の延長を認めた（承認件数：５件）。

【一般部門】

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
コンゴ民主共和国ルオー学術保護とその周辺地域における野生ボノボの保全活動	保全活動	特定非営利活動法人ビーリア（ボノボ）保護支援会	929,500円
ヤエヤマハラブチガエルの年齢構造と遺伝学的情報に基づく地域個体群の保全優先度の検討	調査研究	戸金 大、秋田耕佑、阿南一穂	999,800円
トウキョウトガリネズミの繁殖生態に関する研究	調査研究	河原 淳	570,000円
近年増加する記録的豪雨がもたらす、希少亜種ダイトウコノハズクへの影響の解明	調査研究	ダイトウコノハズク保全研究グループ	994,000円
バングラデシュ北東部におけるスナドリネコと住民との軋轢緩和	保全活動	鈴木 愛	999,000円
日本で最も絶滅に近い鳥オガサワラカラヒワの絶滅回避のためのカメラセンサス調査	調査研究	一般社団法人Islands care	1,000,000円
給餌の影響がなくなった野外コウノトリの繁殖および分布の変化に関する研究	調査研究	伊崎実那	931,200円
茂原公園のカメについて学ぼう	普及啓発	千葉県立長生高等学校	679,000円
オキナワトゲネズミ・ケナガネズミの域外保全を目的とした基礎研究	調査研究	特定非営利活動法人どうぶつたちの病院 沖縄	1,000,000円

刺し網漁による海鳥混獲の実状把握 ～ウミガラスとエトピリカの保全を目指して～	調査研究	一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京	999,000円
--	------	--------------------------	----------

【東京動物園協会保全パートナー部門】

助成対象活動名	助成対象者	交付額
希少鳥類における域外保全の推進にむけた繁殖生理生態の解明——ライチョウとハシビロコウを中心に	岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室（動物園生物学研究センター）	1,500,000円

② 収入の状況

寄付金	2,065,990円	企業・個人からの寄付
-----	------------	------------

③ 基金残高

基金残高	97,290,806円（令和4年3月31日現在）
------	--------------------------

④ 東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会の開催

助成対象活動の選定を適正かつ公正に行うため、東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会を開催し、助成対象活動を選定した。

〔審査委員会〕※感染拡大防止のため、審査委員会は書面開催とした。

書面締切	議 題
3月23日	令和4年度助成対象活動選定について

⑤ 助成対象活動選定結果

*令和4年2月1日～2月28日公募。3年度内に助成対象を決定し、助成金は4年度に交付。

【一般部門】

*助成金額上限：100万円/年、助成件数：3部門合計5件程度

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
国内に生息する野鳥の鉛汚染状況の実態調査	調査研究	牛根奈々	860,000円
野生動物における身体的ストレスおよび心理的幸福度の評価法に関する研究	調査研究	大和 修	1,000,000円
トウキョウトガリネズミの繁殖生態に関する研究	調査研究	河原 淳	770,000円
刺し網漁による海鳥混獲の実状把握 ～ウミガラスとエトピリカの保全を目指して～	調査研究	一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京	443,480円

オキナワトゲネズミ・ケナガネズミの域外保全を目的とした基礎研究（継続）	調査研究	特定非営利活動法人どうぶつたちの病院 沖縄	1,000,000円
齢構造解析とゲノムワイドなSNP解析によるヤエヤマハラブチガエルの保全生態学的研究	調査研究	戸金 大、秋田耕佑、阿南一穂	998,600円

【中高校生部門】

＊助成金額上限：50万円/年、助成件数：合計2件程度

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
奈良・グリーンヒル生駒におけるツバメの子育て研究	調査研究	奈良女子大学附属中等教育学校	293,970円

【東京動物園協会保全パートナー部門】

＊助成金額上限：100万円/年、助成件数：1件（令和2年度から継続）

助成対象活動名	助成対象者	交付額
希少鳥類における域外保全の推進にむけた繁殖生理生態の解明——ライチョウとハシビロコウを中心に	岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖額研究室（動物園生物学研究センター）	1,000,000円

⑥ 「東京動物園協会野生生物保全基金」成果報告会

令和2年度に完了した助成対象活動について、前年度と同様、成果報告動画を都立動物園・水族園公式サイト「東京ズーネット」および「東京ズーネットYouTubeチャンネル」で公開した。

公開月日	内 容
3月13日	動画1 「トウキョウトガリネズミの繁殖生態に関する研究」 河原 淳 氏 動画2-1 「タナゴ属の産卵行動の誘発と人工的産卵装置の開発 ～イタセンパラ保護のために～」 動画2-2 「イタセンパラ保護啓発活動」 愛知県立一宮高等学校 生物部 動画3 「齢構造と遺伝的多様性からみたヤエヤマハラブチガエルの保全生態学的研究」 戸金 大 氏・秋田耕佑 氏・阿南一穂 氏 動画4 「コンゴ民主共和国ルオー学術保護区とその周辺地域における野生ボノボの保全活動」 特定非営利活動法人ビーリア（ボノボ）保護支援会 動画5 「希少亜種ダイトウコノハズクの利用環境の解析による採餌戦略解明の試み」 ダイトウコノハズク保全研究グループ

〔５〕利用者サービス

１．入場券の売改札及び利用案内・園内サービス

（１）入場券の売改札

入場券の売改札、年間パスポートの販売を行った。

【入園者数】

（単位：人）

区 分			上野	多摩	葛西	井の頭	合計	摘 要
有 料	個 人	一 般	402, 682	219, 697	234, 351	163, 243	1, 019, 973	
		中学生	2, 514	1, 415	3, 136	317	7, 382	
		65歳以上	31, 071	16, 597	10, 664	12, 719	71, 051	
		計	436, 267	237, 709	248, 151	176, 279	1, 098, 406	
	団 体	一 般	3, 395	3, 972	3, 992	551	11, 910	20人以上
		中学生	1	5	29	0	35	〃
		65歳以上	66	99	172	79	416	〃
		計	3, 462	4, 076	4, 193	630	12, 361	
	小 計		439, 729	241, 785	252, 344	176, 909	1, 110, 767	
	無 料	個 人	小学生以下	106, 692	140, 810	155, 570	110, 780	513, 852
中学生			2, 867	2, 500	7, 223	2, 256	14, 846	都内在住在学
計			109, 559	143, 310	162, 793	113, 036	528, 698	
団 体		幼 児	0	782	0	931	1, 713	
		小学生	161	890	0	747	1, 798	
		中学生	0	34	0	58	92	
		計	161	1, 706	0	1, 736	3, 603	
特 免		15, 164	11, 204	8, 290	8, 724	43, 382	身体障がい者等	
その他		697	442	5, 635	265	7, 039	無料開園日等	
小 計		125, 581	156, 662	176, 718	123, 761	582, 722		
合 計		565, 310	398, 447	429, 062	300, 670	1, 693, 489		

【年間パスポート販売状況】

園 名	販売実績	摘 要
上 野 動 物 園	9,858枚	一般2,400円、65歳以上1,200円
多 摩 動 物 公 園	3,103枚	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	1,345枚	一般2,800円、65歳以上1,400円
井の頭自然文化園	4,497枚	一般1,600円、65歳以上 800円
合 計	18,803枚	

(2) 有料施設等の占用等の申請受付と料金徴収

園内での写真撮影や集会所の使用申請の受付事務と入園料、使用料、占用料の徴収及び東京都への納付事務を行った。

【入園料金の徴収】

園 名	収 納 額	摘 要
上 野 動 物 園	167,154,820円	大人600円、中学生200円、65歳以上300円
多 摩 動 物 公 園	129,691,000円	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	168,812,730円	大人700円、中学生250円、65歳以上350円
井の頭自然文化園	59,792,310円	大人400円、中学生150円、65歳以上200円
合 計	525,450,860円	

【占用料・使用料の徴収】

園 名	収 納 額	摘 要
上 野 動 物 園	236,980円	占用料（写真撮影等）
多 摩 動 物 公 園	429,206円	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	99,050円	〃
井の頭自然文化園	150,700円	占用料・使用料（資料館・童心居）
合 計	915,936円	

(3) 利用案内・園内サービス

園内における利用者案内、迷子相談、園内放送、救急救護、車椅子の貸出等のサービスや遺失物・拾得物対応を実施したほか、園外からの電話による問い合わせに対応、園内案内図、案内板の更新を行った。

【園内利用案内】

(単位：件)

園名	迷子相談	園内放送	入園者救護	車椅子貸出	遺失物届	拾得物届
上野	28	1,295	91	283	153	552
多摩	17	2,031	107	111	241	1,988
葛西	45	1,141	63	55	193	903
井の頭	31	139	73	36	136	822
合計	121	4,606	334	485	723	4,265

2. 園内の保安及び環境美化

(1) 園内巡回警備

巡回警備による整理・誘導、防犯等、入園者の安全に配慮して実施した。

(2) 園内清掃及び廃棄物搬出

園内美化を図り、園内の清掃及び収集したゴミ等の廃棄物を園外へ搬出した。また、搬出した寝藁等は専門施設においてリサイクルし、肥料化した。

3. 利用促進・PR活動

感染拡大防止対策として臨時休園、イベント自粛、事前予約制による入園制限と、積極的な集客施策の実施が困難な状況が続いたが、各園の使命や魅力の発信、入園者へのサービス向上等を重点化し、積極的に実施した。ウェブサイトやSNSによるデジタルコンテンツの展開を強化するとともに、当協会が行っている野生生物保全に関する取り組みを発信することで、都立動物園・水族園の認知を高めファンを増やす取り組みを行った。

【Visit Zoo事業】

実施項目	内 容
春季施策	・臨時休園期間において、自宅にしながら動物園・水族園の見どころや生き物の観察を楽しめるウェブコンテンツ「東京Zoovie Maps & Tours」を積極的にPRするため、小学生向け環境情報媒体紙「エコチル」（23区内公立小学校730校へ納品、約300,000部配布）や幼稚園向けクーポン冊子「ハッピープレゼントクーポン東京版GW号」（都内の幼稚園・保育園850園に納品、約90,000部配布）への広告掲載を行った。 - また、Tカード会員へのセグメント分けしたターゲットに約50,000通のメール配信を行い、当該コンテンツURLへの遷移を促進した。
夏季施策	・若年層をターゲットに各園の使命や魅力を伝えるため、若者をキャストに採用した各園の動画を制作し、9月1日から東京観光情報センターなどの観光案内所で放映した。動画放映は継続して複数施設で行い、3月時点においては（公財）東京都道路整備保全公社が管理する新宿駅西口大型サイネージでも放映した。 ・9月1日～9月7日の間、東京駅前JPタワーKITTE地下1階の東京シティアイ観光情報センターにおいてパネル出展を実施し、野生生物の保全に関する情報発信、オンラインで楽しめる事業紹介を行った。
秋季施策	・自宅でも楽しめるとともに、来園時にはポイントを絞った効率的な観覧を提供するコンテンツ「都立動物園・水族園 見どころデジタルマップ」を公開し、各園の動物展示の見どころ、写真に撮りたくなるような景色、おすすめのギフト商品、少しマニアックなスポットなどを解説と写真付きで紹介した。また、園内にポスターを掲出したほか、園内飲食店のテーブルに掲出するなど積極的に利用促進を行った。 ・4園から選定した12種類の動物写真とその紹介文や、SDGsに関する取り組みをコラムとして載せた「公益財団法人東京動物園協会カレンダー」を、都内の国立・都立・私立の小学校および特別支援学校（約1,400校）に配布した。
冬季施策	・1月6日から1月10日の間、前述の「見どころデジタルマップ」を発展的に活用し、スマートフォンを用いて各園それぞれの冬の見どころを巡る「都立動物園・水族園 冬の見どころデジタルラリー」を開催した。冬季ならではの見どころや日本の生き物の紹介を追加し、非接触で安心して参加できるスタンプラリーを実施した。計画時点では2月末までの開催期間を予定していた

実施項目	内 容
	が、臨時休園となり大幅な期間短縮となったが、デジタル施策への良好な反応を確認した。 ・ 1月8日から1月14日までの間、札幌市主催の「環境広場さっぽろ2021バーチャルツアー」に出展し、「東京Zoovie Maps & Tours」を体験してもらうことでコンテンツ自体のPRとともに、4園の使命や魅力を発信した。 ・ 2月14日より、(公財)東京都道路整備保全公社が管理する新宿駅西口広場ブライトサイン(高さ2.5m幅5.4mの屋外広告媒体)へ環境写真広告を掲出した。 ・ (公財) 東京観光財団が発行する令和3年度版東京トラベルガイドへ1ページの広告を掲出した。

【利用促進・PR】

事 項	摘 要
ウェブサイト	・ ウェブサイト「東京ズーネット」を通じて、動物の最新ニュースや動画、イベント情報等を多くの人に向けて発信した。 ・ 感染拡大防止のためのイベント休止又は中止、各園の臨時休園及び再開園について、遅滞なくウェブサイト及び各園Twitterアカウントにより情報を発信して周知した。 ・ 「ソーシャルメディア公式アカウント」バナーを各園トップページにも設置し、各種公式アカウントへのアクセスを容易にした。 ・ 各園の動物展示の見どころ、写真に撮りたくなるような景色、おすすめのギフト商品、少しマニアックなスポット等を解説付きで紹介する新コンテンツ「都立動物園・水族園 見どころデジタルマップ」を公開した。 ・ 上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA.JP」では、パンダに関する情報を掲載したほか、ジャイアントパンダ保護サポート基金についても広くアピールした。 ・ Twitterによる4園の情報発信を通じて、即時性のある情報をタイムリーに配信した。 ・ YouTube上の「東京ズーネット公式チャンネル」において、おもにジャイアントパンダの最新情報を動画を通じて配信した。 ・ Instagramを4園共通アカウントとして運用し、園内や事業の魅力を伝える動画の投稿を行った。
広 告 物	・ 東京都内の幼稚園・保育園へ配布する携帯型クーポン冊子「ハッピープレゼントクーポン東京版」のGW号・夏休み号・秋号・冬休み号に、4園および「東京Zoovie Maps & Tours」、「都立動物園・水族園デジタルマップ」をPRするための広告を掲出した。 ・ 新宿駅西口の行政情報掲示板（高さ2.5m幅5.3mの屋外広告媒体）に、

事 項	摘 要
	4園の生物多様性保全活動をテーマとした広告ビジュアルを掲出した。 ・上野動物園では、11月1日～3月22日までJR上野駅構内の書店にて、上野動物園の動物を一定期間ごとに入れ替えて紹介するパネル展示やオリジナルしおりの配布を行い、野生生物保全に関する情報発信を行った。 ・多摩動物公園では、令和3年12月13日から令和4年5月10日まで京王動物園線車内に「干支の企画展「とらえてみよう トラの魅力」」の中吊り広告を掲出した。 ・葛西臨海水族園では、JR東日本と連携し、JR葛西臨海公園駅構内に設置したディスプレイモニターにおいて展示生物を紹介する映像を放映をしたほか、駅に隣接する商業施設Ffに葛西臨海水族園オリジナル商品のディスプレイやパンフレットの設置を行った。 ・井の頭自然文化園では、最寄り駅前の大型ビジョンでのPR動画放映を継続して実施した。また、3月1日から開園80周年をテーマとした、路線バスのフルラッピング広告を掲出した。
そ の 他	・繁忙期における休園日の臨時開園（上野6日、多摩3日、葛西6日、井の頭2日）を実施した。 ※その他の繁忙期に予定していた臨時開園（上野2日、多摩1日）はス感染拡大防止のための臨時休園期間となったため中止となった。また開園時間延長（上野11日、多摩11日、葛西9日、井の頭7日）についても、中止した。 ・「雨の日サービス」として、各園のTwitterを利用して展示やイベントに関する予定変更の情報、雨の日の展示動物の様子や「雨の日ならではの楽しみ方」等に関する情報発信を実施した。 ・訪日入園者の動向を把握するため、Wi-Fi電波観測による入園者国別推計調査を実施した。 ・訪都旅行者向けに、都立動物園・水族園紹介パンフレット「Tokyo Zoos & Aquarium」（英語・中国語〔繁体・簡体〕・韓国語及び日本語）を東京都観光案内所等で配布した。

4. 広報広聴

園内動物の繁殖や催物等についての広報発表、取材対応のほか苦情や意見への対応を行った。

(1) 主な広報発表

園 名	発表日	件 名
上 野	6月23日	恩賜上野動物園のジャイアントパンダ「シンシン」2頭出産のお知らせ
	6月24日	Web版うえのZOOスクール2021参加者募集！
	7月20日	日本で初めて成功！ 人工授精によるニホンライチョウの誕生
	12月10日	ジャイアントパンダ「シャオシャオ」「レイレイ」の公開について
	3月9日	恩賜上野動物園は開園140周年「はじまりはいつも上野から～動物園が、未来の動物たちにできること～」記念企画を開催します！
	その他、合計30件	
多 摩	6月23日	「ライオンバス」の運行を再開します
	7月7日	令和3年は6羽のトキが育っています 令和3年繁殖結果報告
	10月14日	トガリネズミ類の繁殖生態解明の取組成果 ① オオアシトガリネズミが多摩動物公園で繁殖しました！ ② トウキョウトガリネズミがはじめて飼育下で生まれました！
	12月23日	野生生物保全センター オンライン講演会 「未来につなごう！世界に誇れる小笠原の生き物たち」開催
	3月14日	アフリカゾウの「アコ」が死亡しました
	その他、合計21件	
葛 西	6月10日	2021年度学年別オンラインプログラム「くらべてみるとおもしろい！魚とわたし、魚と魚」
	7月21日	夏の特別配信！ YouTube LIVE「夜の水族園2021」
	10月22日	オウサマペンギンのヒナが育っています！
	11月11日	講演会「ペンギンの秘密にせまる！ ～水族園で取り組む最新の研究～」開催！
	2月10日	北海道海鳥センターと共同開催！ 講演会「つどえ オロロ～ン！」
	その他、合計8件	
井の頭	10月28日	おうちで身近ないきもの観察「タネのタネあかし！」参加者募集！
	11月11日	ツシマヤマネコの「メイ」を移動します
	2月24日	都立動物園・水族園合同企画 身近な水辺保全講演会 第2回「オタマジャクシが教えてくれる、水辺のこと森のこと」参加者募集！
	3月9日	井の頭自然文化園 開園80周年記念企画 年間スケジュール発表！
	合計4件	

（２）苦情・意見への対応

園内に設置した意見箱やウェブサイト「東京ズーネット」に寄せられた苦情・意見について、関係部署へ周知するとともに対応策を検討し、園内環境やサービス等の改善に努めた。また、データベースを活用しサービスの改善・充実を図ったほか、各園に寄せられた主なご意見ご要望およびそれに対する回答と対応について、月毎にウェブサイト「東京ズーネット」への掲載を行った。

〔6〕安全・安心の確保

来園者、職員の新型コロナウイルス感染防止対策及び飼育体制の維持に取り組むとともに、命を預かる現場としての安全確保や事故発生抑止、事業継続計画の推進、情報対策の強化等危機管理対策を拡充し、全職員の危機管理意識の向上に努めた。

また、令和元年8月に多摩動物公園において発生した職員の死亡事故については、令和2年度に策定した「動物事故再発防止対策」に基づき、定期的に進捗状況を確認し、安全管理の徹底を図った。

（1）新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の対策については、お客様に安心して来園していただけるよう、総務部と各園が連携を図りながら感染防止対策の徹底に努めた。

お客様に関する対策としては、事前予約制や滞留管理方式による入場制限を実施するとともに、入園前の検温、消毒の徹底、店舗での飛沫感染対策シート、アクリル板の設置、座席の間引き等の感染防止対策を行った。

また、職員に関する対策としては、手洗い、マスクの着用、手指消毒の徹底、黙食などの基本的な感染対策の徹底を図るとともに、テレワークや時差通勤の実施、出張については可能な限り自粛し、WEB会議等を積極的に活用すること等により、クラスター等を発生させることなく、業務を継続して遂行することができた。

引き続き、協会をあげて新型コロナウイルス感染症対策を実施し、お客様及び職員の安全・安心の確保に向け取り組んでいく。

（2）動物事故再発防止対策

令和元年8月に多摩動物公園インドサイ舎において発生した飼育職員の死亡事故を受け、動物事故再発防止PTによる再発防止策として令和2年に策定した「動物事故再発防止対策」に基づき、危機管理委員会下にある「動物事故・感染症対策部会」において定期的に進捗状況を確認し、安全管理の徹底を図った。

【動物事故再発防止対策】

区分	対策	具体的内容
特定動物等のより安全な管理方法の構築	飼育管理のルール化	・種毎に危険度に応じたルールを設定し、同場に関するルールを定める。 ・飼育作業におけるリスクアセスメントを実施し、それを踏まえた「安全作業マニュアル」を作成する。
職員が安全に作業できる施設・設備の整備	物理的遮蔽	・管理通路にライン塗装し、通常の作業ではラインより動物舎側に立ち入らないこととする。 ・スクイズケージや柵場の導入など、物理的遮蔽手段を検討する。
	職員の状況把握のための取り組み	・カメラによるモニターシステムを導入する。 ・複数の動物舎を担当する職員がどこで作業をしているか把握するための作業スケジュール表を作成する。
	非常時連絡システムの導入	・転倒時通報機能や音声発信機能を有したスマートウォッチを順次導入する。 ・既存のPHSに位置情報通知機能等を追加する。

職員の安全を確保するための取り組み及び体制の確立	作業時の安全確保体制	・インドサイ舎の飼育体制について、2名の担当者を置いた。 ・班の担当する飼育作業を共同で行う「グループ制」もしくはリスクの高い作業を抽出し、班の枠を超えた2～3名の職員が対応する「ユニット制」の導入を検討する。
	施設改修や補修の計画的実施	・毎年作成している施設改修の全体計画に、随時提出される個別の工事・作業依頼を反映させ、柔軟に施工準の見直しを行うこととする。
	引継ぎの体系化	・引継ぎ書類の内容を統一化し、それぞれの動物種の課題・懸案事項を着実に引き継げる体制とする。
職員の安全意識の向上	職員の情報共有等の仕組み	・職員の作業予定や体調など、班員同士が情報共有を図るため「班ミーティング」を毎日決まった時間に実施することをルール化した。
	ヒヤリ・ハット事例の収集と共有	・ヒヤリ・ハット事例の収集と共有のルールを策定し、事故防止に活用する仕組みを構築する。
	作業の安全性の客観的な検証	・飼育管理のルール化において実施する飼育作業のリスクアセスメントにおいて定めるリスク提言措置について、年に1回実施状況確認を行う。
	継続した安全意識の確保	・安全意識向上につながる研修を毎年実施する。 ・事故の発生した8月25日を「安全の日」と定め、黙とうや訓示を実施し、事故の記憶の風化を防止する。

今後は、この「動物事故再発防止対策」を危機管理委員会の下「動物事故・感染症対策部会」において定期的に進捗状況を確認し、安全管理の徹底を図る。

(3) 事業継続 (BCP)

震災、テロ等の大規模災害の発生を想定し、備蓄品の確保やマニュアルを整備したほか、各種訓練の実施を通して災害対応力を向上させた。

また、令和3年度には、職員の災害対策教育ならびに災害対応力向上のため、災害発生時に職員が対応すべき具体的行動についてまとめたハンドブック「東京ZOO防災」を作成し、職員への配布を行った。

訓練名	開催日	目 的
コロナ禍における震災対策机上訓練 (第1回訓練)	井の頭：6/23 上 野：8/26 多 摩：9/10 葛 西：9/11	コロナ禍における震災発生を想定し、初動対応及び事業継続における対応事項の確認を目的として実施
参集訓練	総務部・4園：11/18	参集経路の確認と参集者によるオンラインでの本部運営訓練を実施
震災対策訓練 (第2回訓練)	井の頭：12/6 葛 西：2/15他 上 野：3/10 多 摩：3/15	各園の課題に応じて災害対応力の向上を目的として実施 ・第1回机上訓練で抽出した課題に対する現場対応の確認

		・隊別での初動対応及び災害対策本部運営の確認 ・更新した無線の通信訓練
テロ対策訓練 (第2回訓練)	葛 西：12/22	テロの発生抑止と対応力の向上を目的として実施 ・サスマタ演習等初動対応の確認 ・警察等関連団体との連携強化
無線通信訓練	総務部・各園：毎月	災害対応力の向上を目的として実施
安否確認訓練	総務部・各園： 4半期に1回	災害対応力の向上を目的として実施

(4) 災害対策

台風や大雨等の気象警報発令時等には、巡回点検や職員の事務所待機を行い災害時に備えるとともに、被害復旧対応を行った。

(5) 情報セキュリティ対策

「情報セキュリティ自己点検」「e ラーニング」「標的型メール訓練」を実施した。メールの誤送信防止のため、メール送信時にポップアップ機能を追加し、一斉送信の際には専用ソフトを導入した。セキュリティ対策の強化として、組織全体のインターネット回線をより安全な通信ができる方式に変更した。また、専門業者による「情報セキュリティ外部監査」を上野動物園で実施した。

(6) 工事等安全衛生対策

上野労働基準監督署より講師を招いて講習会（オンライン）を行い、園内で工事や作業を行う指定店事業者の安全衛生対策の強化を促した。

講習項目：・労働災害発生状況と公園工事業の労働災害防止対策
・新型コロナウイルス感染症対策 ほか

参加者数：148社、158名

(7) 工事等事故防止対策

令和2年度に多摩動物公園で発生した転落事故を教訓に、園内作業における事故防止対策を強化している。事故防止のため、協会職員と受注者が共通の認識を持って、「安全対策が不十分なまま作業に着手してはならない。」という姿勢を堅持している。

主な対策等

- ・受発注者の立ち合いによる安全対策の事前確認
- ・安全講習会への積極的な参加
- ・朝礼や終礼でのKY活動等
- ・担当外職員による注意喚起の制度化
- ・特記仕様書による事故防止対策指示の強化
- ・指定店契約時の意識啓発（安全管理計画等）
- ・事故の重大さに応じた契約解除や発注停止等の制度化

(8) 園内施設・設備の維持管理

① 定常的維持管理

施設や設備を適切に保守し、利用者の安全と快適性を確保するために、以下の園内施設の維持管理業務を行っている。

園 名	主 要 施 設	主要維持管理業務
上 野 動 物 園	- 敷地面積：144千㎡ - パンダ舎、ホッキョクグマとアザラシの海、クマ舎、ゾウ舎、アイアイのすむ森 等 - 両生爬虫類館 - 管理センター - 不忍池	- 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） - 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） - 不忍池水質管理 - 設備点検 - 保護管理（植込地、花壇） - 危険樹点検対応 他
多 摩 動 物 公 園	- 敷地面積：601千㎡（含む七生公園） - オランウータン舎、コアラ館等 - ライオン園 他 - 昆虫生態園 - 丘陵地	- 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） - 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） - 設備点検 - 保護管理（植込地、芝生地、花壇） - 危険樹点検対応 他
葛 西 臨 海 水 族 園	- 敷地面積：86千㎡ - 水槽数：47 - マグロ水槽（2,200t）、ペンギン池 他 - ポンプ（水処理用244台、給排水用53台）	- 設備補修（冷凍機、水処理 他） - 施設補修（水槽、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（中央監視、水処理、展示システム、排水処理、オゾン設備 他） - 設備点検 - 保護管理（植込地、芝生地、花壇） - 危険樹点検対応 他
井 の 頭 自 然 文 化 園	- 敷地面積：116千㎡ - 大放飼場 - 彫刻館 - リスの小径 - 資料館 - 水生物館	- 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） - 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（機械、水処理、放送 他） - 設備点検 - 保護管理（植込地、花壇） - 危険樹点検対応 他

② 集中的維持管理

設備補修や地球温暖化対策等を行うとともに、ナラ枯れ処理、ベンチ座板補修等の集中的な修繕を行った。

園名	No.	修 繕 施 設	概 要
上 野	1	動物舎	西園パンダ舎カーテン扉設置
	2	照明設備	両性爬虫類館照明設備補修
	3	建物	無料休憩所床補修
	4	工作物	ベンチ座板等更新
多 摩	1	照明設備	ウォッチングセンター照明補修
	2	動物舎	レッサーパンダ舎屋根補修
	3	放飼場	アフリカゾウ放飼場補修
	4	樹林	ナラ枯れ被害木処理
葛 西	1	建物	東京の海トップライト補修
	2	放飼場	ペンギン擬岩架台補修
	3	循環設備	各種設備補修
	4	工作物	ベンチ座板等更新
井の頭	1	循環設備	水生物館ろ過設備補修
	2	照明設備	管理事務所照明補修
	3	工作物	ベンチ座板等更新
	4	樹林	支障木点検及び伐採等樹林地維持業務

(9) 事件・事故対応

事件・事故の発生や対応、原因分析、再発予防策等について、グループウェアを活用して情報を迅速に共有し、適切な進行管理を行った。

〔 7 〕 受託業務

1. 恩賜上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトに係る業務受託

東京都からの受託により、都と中国野生生物保護協会の間で締結された「ジャイアントパンダ保護研究実施の協力協定書」に基づく研究プロジェクトについて、上野動物園におけるジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトの進展状況報告書の作成や、中国側の保護資金の使用状況に関する調査を実施した。

項 目	内 容
件 名	恩賜上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトに係る業務受託
業 務 内 容	ジャイアントパンダの飼育、管理及び健康等の状況報告、研究協力プロジェクトの進展状況報告書の作成、中国側との連絡業務、子の返還輸送に係る業務。
期 間	令和 3 年 4 月 1 日 ～ 令和 4 年 3 月 31 日
委 託 金 額	58,069,333円
受 領 額	33,658,805円

2. 特別天然記念物トキの健康管理及び飼育指導に係る業務受託

例年実施している、佐渡市のトキ保護センター、野生復帰ステーションにおけるトキの定期検診及び飼育指導は、感染拡大防止のため、令和 3 年度は実施しなかった。

項 目	内 容
件 名	特別天然記念物トキの健康管理及び飼育指導に関する業務受託
業 務 内 容	① 特別天然記念物トキの飼育・管理指導 ② 特別天然記念物トキの定期健康診断 ③ 特別天然記念物トキの疾病時における専門的治療 ④ 特別天然記念物トキの人工増殖の指導 ⑤ トキ類縁種の研究飼育指導
期 間	令和 3 年 4 月 1 日 ～ 令和 4 年 3 月 31 日
委 託 金 額	0 円 ※新型コロナウイルス感染症への対応として出張は中止とし、契約は締結しなかった。

3. 多摩動物公園へのスリランカゾウの導入支援事業における受託に関する協定

東京都がスリランカ民主社会主義共和国から導入するスリランカゾウ2頭を、多摩動物公園に導入するための支援事業について都と協定を締結したが、スリランカ民主社会主義共和国での新型コロナウイルス感染症拡大による度重なる外出禁止令等対応措置の影響により、同国側での当該業務調整が滞り、協定期限までの履行に至らず、当該業務は遂行できなかった。

項 目	内 容
件 名	多摩動物公園へのスリランカゾウの導入支援事業における受託に関する協定
業 務 内 容	スリランカゾウの輸送、スリランカゾウ導入準備、スリランカゾウ公開式典の開催、報告書の作成。
期 間	令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
委 託 金 額	163,895,600円
受 領 額	0円 ※新型コロナウイルス感染症への対応として履行に至らず。

4. 大島公園動物園動物飼育管理業務受託

東京都大島支庁からの受託により、大島公園動物園における展示動物の飼育管理やイベントの対応等を行った。

項 目	内 容
件 名	大島公園動物園動物飼育管理業務受託
業 務 内 容	大島公園動物園の展示動物の飼育及びこれに関する管理業務
期 間	令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
委 託 金 額	44,550,000円

5. 都立動物園における5G等の先端技術を活用した情報発信事業実証実験実施業務受託

東京都からの受託により、上野動物園において、動物と動物園の新たな魅力を発信することを目的とした情報発信事業の実証実験を実施するとともに、実験結果の評価検証を行い、令和4年度以降、都立動物園において本格的に先端技術を活用した情報発信を推進していくための計画案を作成した。

項 目	内 容
件 名	都立動物園における5G等の先端技術を活用した情報発信事業実証実験実施業務受託
業 務 内 容	・上野動物園において、動物と動物園の新たな魅力を発信することを目的とした情報発信事業の実証実験、及び実験結果の評価検証 ・令和4年度以降、都立動物園において本格的に先端技術を活用した情報発信を推進していくための計画案の作成
期 間	令和3年11月6日～令和4年3月22日
委 託 金 額	39,304,100円

第3 収 益 事 業

I. 事業総括

上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園の利用者の利便性と公益目的事業の充実のために、以下の事業を実施した。

事業区分	事業細目		
	園名	種別	箇所数
I. 便益施設の経営	(1) 上野動物園	(1) 売店	3
		(2) 飲食店	2
		(3) 臨時売店	4
		(4) 自動販売機コーナー	12
		(5) ベビーカー貸出所	3
		(6) コインロッカー	2
		(7) フォトサービス	1
		(8) 写真(映像資料)貸出	1
	(2) 多摩動物公園	(1) 売店	4
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	4
		(4) 自動販売機コーナー	12
		(5) ベビーカー貸出所	1
		(6) コインロッカー	1
		(7) ライオンバス	1
		(8) フォトサービス	1
	(3) 葛西臨海水族園	(1) 売店	2
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	1
		(4) 自動販売機コーナー	3
		(5) コインロッカー	2
		(6) フォトサービス	1
	(4) 井の頭自然文化園	(1) 売店	2
		(2) 臨時売店	1
		(3) 自動販売機コーナー	3
II. その他事業	(1) 上野動物園内広告事業(広告施設9箇所)		
	(2) 協賛金募集事業(ジャイアントパンダ保護サポート基金等)		

Ⅱ．事業実績

〔１〕 便益施設等の経営

収益事業においては、新型コロナウイルス感染拡大防止の一環として、令和２年度に引き続き２度にわたる長期休園を行ったことにより、４園の収入は大幅減収となった前年度を更に下回る約11.1億円となり、３年連続の減収となった。

令和３年度としては４園ともに年度当初から令和３年６月３日まで、および令和４年１月11日から３月21日まで（上野動物園は３月22日まで）、２期にわたり約４カ月半の臨時休園を行った。また、それぞれ再開園後は、各園共に感染防止対策のための大幅な入園制限を行っている。

臨時休園や入園制限による収益減の対応策として、通信販売の拡充及び園外販売の強化を行い、通信販売は自社サイトの強化に加え、新たにAmazonでのシャンシャン関連商品の販売や百貨店通販サイトでの福袋販売などを実施した。（令和３年度売上 Amazon:876.3万円、京王福袋:121万円）

また、６月に誕生したジャイアントパンダの双子の赤ちゃん「シャオシャオ・レイレイ」は休園期間中の公開となったため、誕生記念商品は通信販売で先行販売した。

園外販売としては、外部出店９件、委託販売16件、卸販売２件を実施した。（下表参照）

今年度は、教育普及センターや運営企画課マーケティング担当、各園教育普及係と連携して、普及啓発ポスターの掲示、動画放映をするなどして再開園後に来園していただけるような取り組みも合わせて実施した。また地域性を生かし、上野動物園は上野駅アトレ、上野駅エキュート、上野公園パークス上野、多摩動物公園では京王百貨店聖蹟桜ヶ丘店、葛西臨海水族園では葛西臨海公園駅の高架下商業施設「Ff」での出店や委託販売を行った。

合わせて各園のギフトショップでは、それぞれの売り場で「４園紹介コーナー」を設け、４園の商品販売を継続している。

多摩動物公園では、耐震化及びバリアフリー化のための建替え工事により、平成28年４月から休止していたライオンバスを、５年ぶりに７月から再開した。

一方で入園者予測に基づいて生産した商品が休園等で想定販売数を大きく下回った結果、過剰在庫となった商品については、フードバンクへの寄付などにより単純な廃棄をしないよう配慮した。

また、令和２年度から引き続きコロナ禍の影響に加え、世界情勢の変化による物流の停滞や物価高騰に直面したが、原材料費や商品価格の見直しなどにより適宜対応を行っている。

※園外販売の状況

区分	出店箇所等	売上高
外部出店	JR上野駅（アトレ上野店）、京王百貨店新宿店、東京シティアイ（KITTE地下１階）、東京メトロ銀座駅、池袋サンシャインシティALTA等	21,771千円
委託販売	書泉グランデ、京王百貨店聖蹟桜ヶ丘店、そごう大宮店、そごう横浜店、BOOK COMPASSエキュート上野店、西武池袋本店、京王百貨店新宿店（福袋）、湘南蔦屋書店、Ff（葛西臨海公園内）、そごう千葉店、東武宇都宮百貨店大田原店、松屋銀座、東武宇都宮百貨店本店	14,300千円
卸販売	上野案内所売店（東京都公園協会）、東急ハンズ・ハンズビー（一部委託）	14,090千円

1. 施設及び収入額

(単位：千円)

園 名	施 設 名	収 入 額
上 野 動 物 園	1. 1号売店（店名：リトルトランク） 2. 2号売店（店名：カメレオン） 3. 東園中央広場売店（店名：バードソング） 4. 飲食店第1号（店名：さるやまキッチン） 5. 飲食店第2号 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. コインロッカー 10. フォトサービス 11. 写真（映像資料）貸出 12. その他（通信販売事業を含む）	534,617 （この内、通販 は134,169）
多 摩 動 物 公 園	1. 1号売店（店名：コアラ館下売店） 2. 2号売店（店名：ライオンカフェ） 3. 3号売店（店名：コレクション） 4. 4号売店（店名：ズーカフェ） 5. 飲食店（店名：サバンナキッチン） 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. ライオンバス 10. コインロッカー 11. フォトサービス 12. その他	298,846
葛西臨海水族園	1. 1号売店（店名：アクアマリン） 2. 2号売店（店名：アクアスケープ） 3. 飲食店（店名：シーウィンド） 4. 臨時売店 5. 自動販売機コーナー 6. コインロッカー 7. フォトサービス 8. その他	227,259

井の頭自然文化園	1. 1号売店（店名：はな子カフェ） 2. 2号売店（店名：こもれび） 3. 自動販売機コーナー 4. その他	54,078
合 計		1,114,800

2. 商品取扱状況

（単位：点）

区 分		上野 動物園	多摩 動物公園	葛西 臨海水族園	井の頭 自然文化園
取扱商品数		1,004	1,152	1,434	179
内 訳	ギフトその他	870	991	1,317	127
	飲 食 品	134	161	117	52

〔２〕その他の事業

１．上野動物園内広告事業

上野動物園の案内誘導サイン等の整備費用に充てるため、園内に設置した下記の広告掲示施設により、広告料金による民間からの資金を得た。

種 別	設 置 場 所	数 量
動物解説ボード	ジャイアントパンダ、ニホンザル、ヒガシクロサイ、アジアゾウ、ニシゴリラ、ワシ・タカ、キリン・オカピ、ハシビロコウ	８基
環境啓発ボード	モノレール東園駅前	１基
収 入 額	1,795 千円	

２．協賛金募集事業

ジャイアントパンダ保護サポート基金を活用した事業展開のため、園内普及啓発ボードによる協賛や園外でのロゴマーク協賛を実施した。

収 入 額	8,900 千円
-------	----------

第4 決 算 概 要（正味財産増減計算書）

（単位：千円）

科目	公益目的 事業会計	収益事業 会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
（1）経常収益				
基本財産運用益	2,188	—	3,809	5,997
特定資産運用益	2	—	—	2
受取会費	8,372	—	—	8,372
事業収益	94,235	1,149,325	—	1,243,559
受取寄付金	18,302	—	—	18,302
受取委託料	6,211,371	—	211,535	6,422,906
雑収益	80,951	38,388	84	119,423
経常収益計	6,415,420	1,187,713	215,428	7,818,561
（2）経常費用				
事業費	6,543,120	1,408,664	—	7,951,784
管理費	—	—	274,881	274,881
経常費用計	6,543,120	1,408,664	274,881	8,226,665
評価損益等	0	△6,330	0	△6,330
当期経常増減額	△127,700	△227,281	△59,453	△414,434
2. 経常外増減の部				
経常外収益	0	0	13	13
経常外費用	0	29,360	0	29,360
当期経常外増減額	0	△29,360	13	△29,347
他会計振替額	11,734	△67,963	56,228	0
税引前当期一般正味財産額	△115,966	△324,604	△3,212	△443,782
法人税等	—	220	—	220
法人税等調整額	—	4,438	—	4,438
当期一般正味財産増減額	△115,966	△329,262	△3,212	△448,439
一般正味財産期首残高	189,630	914,702	313,696	1,418,028
一般正味財産期末残高	73,664	585,441	310,484	969,589
II 指定正味財産増減の部				
受取寄付金	25,349	0	0	25,349
一般正味財産への振替額	18,302	0	0	18,302
当期指定正味財産増減額	7,048	0	0	7,048
指定正味財産期首残高	232,772	0	0	232,772
指定正味財産期末残高	239,819	0	0	239,819
III 正味財産期末残高	313,484	585,441	310,484	1,209,408

第5 事 務 報 告

I. 役員会議の開催

〔1〕 評議員会

回	開催月日	議 題
書面決議	5月15日	(1) 理事の選任について (2) 監事の選任について
第1回 定時評議員会 (オンライン)	6月28日	(1) 令和2年度決算報告(案)について 監査報告 (報告事項) 令和2年度事業報告について
書面決議	1月31日	(1) 常勤理事の報酬に関する規程の一部改正について (2) 常勤理事の報酬総額の変更について
書面決議	3月23日	(1) 理事の選任について

〔2〕 理 事 会

回	開催月日	議 題
書面決議	5月8日	(1) 評議員会の開催について
第1回 定時理事会 (オンライン)	6月4日	(1) 令和2年度事業報告(案)について (2) 令和2年度決算報告(案)について 監査報告 (3) 定時評議員会の開催について (4) 常務理事の選定について (5) 第4号議案で選定した常務理事の報酬額について (報告事項) 理事長及び常務理事の職務状況報告
臨時理事会 (オンライン)	12月16日	(報告事項) 新型コロナウイルス感染症対策 (報告事項) 入園者数の状況 (報告事項) 収支改善のための取組 (報告事項) 収益事業の状況 (報告事項) サービス向上の取組 (報告事項) 飼育展示と教育普及の取組
書面決議	1月21日	(1) 常勤理事の報酬額の変更について (2) 評議員会の開催について
書面決議	3月14日	(1) 評議員会の開催について

回	開催月日	議 題
第2回 定時理事会 (オンライン)	3月28日	(1) 令和4年度事業計画(案)について (2) 令和4年度収支予算(案)について (3) 資金調達及び設備投資の見込みについて (4) 常務理事の選定について (5) 第4号議案で選定した常務理事の報酬額について (6) 役員賠償責任保険の加入について (7) 諸規程の一部改正について (8) 事務局長の任免について (報告事項) 理事長及び常務理事の職務状況報告 (報告事項) 令和3年度決算見込みについて

〔3〕評議員選定委員会

回	開催月日	議 題
第1回 (オンライン)	5月20日	(1) 評議員の退任にともなう後任評議員の選任について
第2回 (オンライン)	10月19日	(1) 評議員の退任にともなう後任評議員の選任について

Ⅱ. 監 査

〔1〕京橋監査法人と監査契約を締結し、公認会計士による会計帳簿・証憑書類の試査、実地棚卸立会、現金実査、銀行残高確認等の外部監査を実施した。

〔2〕令和2年度の事業報告及び決算報告について、5月26日に監事による監査を実施した。

Ⅲ. 人事関係

〔１〕 就任・退任

① 評議員の就任

役職名	氏 名	就任月日	摘 要
評 議 員	西 沢 けいた	５月20日	東京都議会環境・建設委員長
〃	須 藤 栄	５月20日	東京都建設局次長
〃	曾 根 はじめ	10月26日	東京都議会環境・建設委員長

② 評議員の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
評 議 員	西 沢 けいた	７月22日	東京都議会環境・建設委員長
〃	須 藤 栄	３月31日	東京都建設局次長

③ 理事・監事の就任

役職名	氏 名	就任月日	摘 要
理 事 長	今 村 保 雄	４月１日	前東京都建設局次長
監 事	小 林 忠 雄	５月20日	東京都建設局総務部長
常 務 理 事	松 山 俊 樹	６月４日	前公益財団法人東京動物園協会事業調整担当部長
理 事	寛 直	３月28日	東京都環境局環境改善部長

④ 理事・監事の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
常 務 理 事	中 川 成 生	４月13日	前公益財団法人東京動物園協会事業調整担当部長（死去）
〃	日 浦 憲 造	３月31日	元東京都建設局公園緑地部長
理 事	植 村 敦 子	３月31日	東京都建設局公園緑地部長
監 事	小 林 忠 雄	３月31日	東京都建設局総務部長

⑤ 参与の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
参 与	日 橋 一 昭	３月31日	公益財団法人東京動物園協会教育普及事業担当

〔2〕役員等名簿（令和4年3月31日現在）

○総 裁 常陸宮正仁親王

○会 長 貫 洞 哲 夫

（1）評 議 員

No.	氏 名	摘 要
1	林 良 博	国立科学博物館顧問
2	高 橋 茅 香 子	翻訳家
3	松 島 ト モ 子	俳優
4	内 山 晟	動物写真家
5	久 邦 彦	漫画家・絵本作家
6	海老名 香 葉 子	エッセイスト
7	遠 藤 秀 紀	東京大学総合研究博物館教授
8	今 泉 忠 明	日本ネコ科動物研究所長
9	林 公 義	前横須賀市自然・人文博物館長
10	三 浦 慎 悟	早稲田大学人間科学学術院名誉教授
11	打 越 綾 子	成城大学法学部教授
12	曾 根 は じ め	東京都議会環境・建設委員長
13	須 藤 栄	東京都建設局次長
14	大 道 和 彦	東京都東部公園緑地事務所長
15	細 川 卓 巳	東京都西部公園緑地事務所長
16	佐 藤 伸 朗	公益財団法人東京都公園協会理事長

(2) 評議員選定委員会

No.	氏 名	摘 要
1	清 水 眞 澄	成城大学名誉教授、三井記念美術館館長
2	会 田 保 彦	ヤマザキ動物看護大学名誉教授
3	高 橋 茅 香 子	翻訳家
4	須 賀 光 一	上野のれん会会長
5	若 井 太 郎	公益財団法人東京動物園協会総務部長

(3) 理事・監事

No.	役職名	氏 名	摘 要
1	理 事 長	今 村 保 雄	前東京都建設局次長
2	常 務 理 事	日 浦 憲 造	元東京都建設局公園緑地部長
3	常 務 理 事	松 山 俊 樹	前公益財団法人東京動物園協会事業調整担当部長
4	理 事	菅 谷 博	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館名誉館長
5	〃	見 城 美 枝 子	青森大学名誉教授、エッセイスト
6	〃	長 谷 川 寿 一	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事
7	〃	西 源 二 郎	東海大学海洋学部客員教授
8	〃	加 藤 勉	京王電鉄株式会社相談役
9	〃	鷺 谷 い づ み	東京大学名誉教授
10	〃	村 井 良 子	有限会社プランニング・ラボ代表取締役
11	〃	尾 崎 清 明	公益財団法人山階鳥類研究所副所長
12	〃	植 村 敦 子	東京都建設局公園緑地部長
13	〃	笥 直	東京都環境局環境改善部長
1	監 事	須 賀 光 一	上野のれん会会長
2	〃	半 田 昌 之	公益財団法人日本博物館協会専務理事
3	〃	小 林 忠 雄	東京都建設局総務部長

(4) 参 与

No.	氏 名	摘 要
1	日 橋 一 昭	公益財団法人東京動物園協会教育普及事業担当

(5) 顧 問

No.	氏 名	摘 要
1	小 池 百 合 子	東京都知事
2	石 内 展 行	元財団法人東京動物園協会理事長
3	矢 島 稔	元財団法人東京動物園協会理事長
4	齋 藤 勝	元財団法人東京動物園協会理事長
5	浅 倉 義 信	元公益財団法人東京動物園協会理事長
6	藤 井 芳 弘	元公益財団法人東京動物園協会理事長
7	羽 仁 進	映画監督・評論家

(6) 正会員

〔賛助会員〕 上 田 浩 上 田 憲 治 上 田 清 一 関 斎
〔特別会員〕 篠 永 哲

Ⅲ. 組 織 概 要

〔１〕協会の機構

○ 総 裁 常陸宮正仁親王

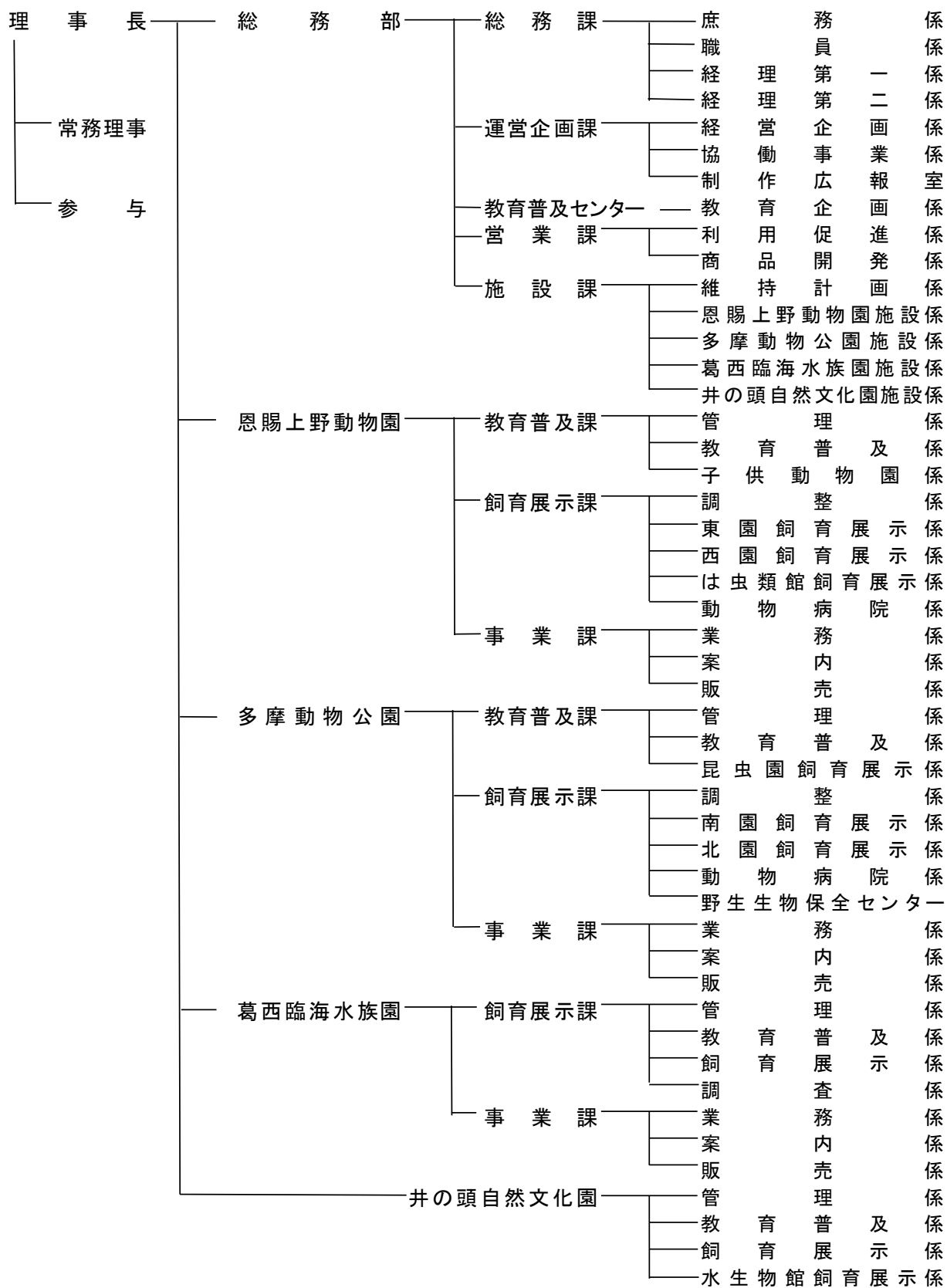
○ 会 長 貫 洞 哲 夫

機関名	名 称	人数等	摘 要
1. 議決・監督 機関	評 議 員 会	16 名	
2. 執 行 機 関	理 事 会	13 名	理事長・常務理事を含む
	理 事 長	1 名	
	常 務 理 事	2 名	
	参 与	1 名	
	事 務 局	4 部 14 課 48 係	
3. 諮 問 機 関	顧 問	7 名	
4. 監 査 機 関	監 事	3 名	
5. 協 力 機 関	賛 助 会 員	4 名	
	特 別 会 員	1 名	
	準 会 員	3,816 名	東京動物園友の会会員

(令和4年3月31日現在)

〔2〕事務局組織

【事務局】



〔 3 〕 事務局職員数

(単位：人)

固有職員			都派遣職員			合 計		
職 員	嘱託員	計	職 員	再雇用	計	職 員	嘱託員 再雇用	合 計
224	139	356	97	0	97	321	139	460

(令和 4 年 3 月 31 日現在)

